

人生100年時代における社会参加マッチング施策の 検討に係る中間のまとめ

令和4年8月

東京都 福祉保健局 高齢社会対策部 在宅支援課

目次

内容	ページ
1. 背景・目的	2
2. 検討委員会概要	6
3. 参考事例	8
4. 区市町村向けアンケート調査結果	33
5. 社会参加の促進に向けた基本的対応方針（中間整理）	50
6. 今後の取組方針	56

1. 背景·目的

本取組の背景

- 人生100年時代において、高齢者がいつまでも元気で心豊かに過ごすには、健康な状態をより長く維持することが重要である。
- そのためには、一人ひとりが、介護予防・フレイル予防に取り組むとともに、自らの希望に応じた仕事や学び、趣味、地域活動ができる機会を持ち続けられるよう、環境を整備していくこと等が求められている。

- 東京はすでに超高齢社会に突入。高齢期は従来の「余生」ではなく、「第二の人生の到来」又は「現役期間の延長」へと変化している。
- 高齢期の様々な生活の態様や、加齢に伴う変化に対応していけるよう、プレシニア期から生涯を通じた、その人に合ったライフキャリア（経験を踏まえた人生設計・生き方）の支援が必要となっている。

【参考：都内の在宅高齢者の理想の就業年齢】



現状の課題

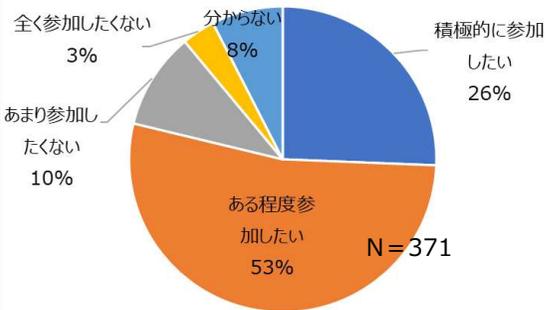
- 前掲の高齢者に向けた支援を進めるに当たっては、以下のような課題が存在する。

【現状の課題】

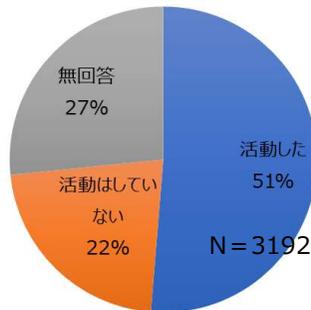
- 現状、多くの高齢者に70歳以降も就労や地域活動等への参加の希望がある一方で、こうした社会参加の意欲が実際の活動に結びついていないといった状況が存在している。
- また、都内区市町村においては、高齢者の社会参加の促進について、「きっかけづくり」「ボランティアとボランティア受入れ施設とのマッチング」等が課題として挙げられており、地域活動の担い手が高齢化し、不足している状況がある。

【参考：社会参加意欲と実際の参加状況の乖離】

■ 定年退職後の地域活動等への参加希望者：約8割



■ 社会参加活動をしている高齢者の割合：約5割



■ 社会参加しない理由（主なもの）：

- ✓ 「きっかけがないから(20.9%)」
 - ✓ 「興味のある活動内容がないから(15.5%)」
 - ✓ 「仲間がないから、一人で参加することに抵抗があるから(14.2%)」
 - ✓ 「活動の情報がないから(10.5%)」
- N = 3,192

【参考：地域活動の担い手の高齢化・不足】

■ 高齢者の社会参加促進の課題（主なもの）：

- ✓ 「老人クラブ会員、ボランティア等の担い手の高齢化・不足」
- ✓ 「高齢者が地域活動に参加するきっかけづくり」
- ✓ 「ボランティアとボランティア受入れ施設とのマッチング」

出所：東京都福祉保健局「在宅高齢者の生活実態調査」（令和元年12月）、インターネット福祉保健モニターアンケート結果、区市町村アンケート結果

背景・課題を踏まえた取組概要

- 前掲の背景や課題を踏まえ、高齢期以降の社会参加を継続的にサポートしていくため、就労、キャリアやスキルを活かしたプチ就労や有償・無償ボランティア、その他社会貢献、自己啓発・趣味活動、仲間との交流等まで、社会参加に関する効果的な事業実施(きっかけづくり、マッチング等)のあり方の検討を行い、社会参加マッチング施策案を策定することとした。

【取組概要】

【内容】

- シニア・プレシニアの社会参加継続支援等のため、検討会を設置し、効果的な事業実施(きっかけづくり、マッチング等)のあり方の検討を行い、社会参加マッチング施策を策定する。

【対象】

- シニア・プレシニアの、就労・プチ就労、有償・無償ボランティア、その他社会貢献、自己啓発・趣味活動、仲間との交流等の社会参加
- シニア・プレシニアを受け入れたい企業、団体等

【検討内容】

- 社会参加促進の対象とすべきシニア・プレシニア、社会参加につなげるための対策
- シニア・プレシニアと多様な社会参加の場を繋ぐマッチング施策のあり方

【検討手法】

- 庁内検討の他、委員会を設置し、外部有識者から意見聴取を行う。

2. 委員会概要

委員会概要

- 前掲の背景・目的を踏まえ、「人生100年時代社会参加施策検討委員会」において、シニア・プレシニアの社会参加継続支援等のため、効果的な事業実施(きっかけづくり、マッチング等)のあり方の検討を行った。

【開催経過】

	日時	議題
第1回	令和4年 5月30日	<ul style="list-style-type: none"> 東京都が実施する社会参加施策の方向性について その他
第2回	令和4年 7月4日	<ul style="list-style-type: none"> 東京都が実施する社会参加施策の方向性について <ul style="list-style-type: none"> 区市町村の相談支援、社会活動の掘り起こし オンラインプラットフォーム その他
第3回	令和4年 8月4日	<ul style="list-style-type: none"> 東京都が実施する社会参加施策の方向性について <ul style="list-style-type: none"> 区市町村向けアンケート調査結果 中間報告案 シニア・プレシニア向けアンケート調査案 その他

【委員名簿】

区分	氏名	所属・役職
委員	岡本 祥公子	認定NPO法人 サービスグラント 理事
委員	中村 天江	公益財団法人連合総合生活開発研究所 主幹研究員
委員	檜山 敦	一橋大学 ソーシャル・データサイエンス教育研究推進センター 教授
副委員長	藤原 佳典	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 研究部長
委員長	和気 康太	明治学院大学 社会学部社会福祉学科 教授
委員	早川 淳	渋谷区生涯活躍推進部長 (生涯活躍推進課長事務取扱)
委員	吉本 知宏	八王子市福祉部高齢者いきいき課長

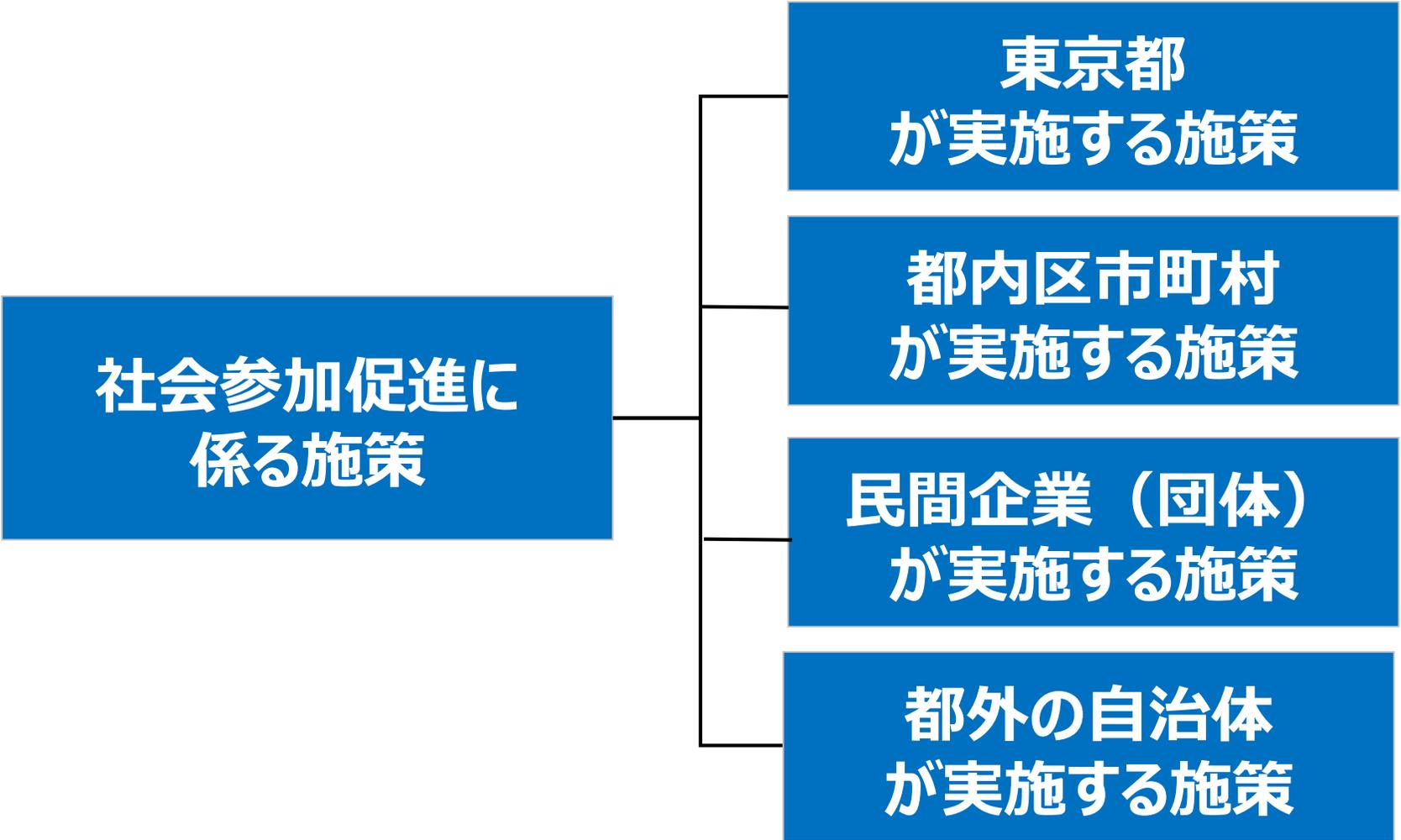
【幹事名簿】

区分	氏名	所属・役職
幹事長	山口 真吾	福祉保健局高齢社会対策部長
幹事	石川 秀之	デジタルサービス局デジタルサービス推進部デジタルサービス推進担当課長
幹事	山本 理	生活文化スポーツ局都民生活部地域活動推進課長
幹事	阿部貞弘	福祉保健局高齢社会対策部在宅支援課長
幹事	石田勝士	産業労働局雇用就業部就業推進課長

3. 参考事例

自治体、民間企業の取組事例の整理

- 自治体、民間企業での高齢者の社会参加促進に係る施策について、以下の視点で取組状況を整理した。



東京都が実施する施策① 高齢者の雇用就業支援

人生100年時代を迎え、高齢者がいきいきと働くことができるよう、 様々な支援を通して高齢者の多様な働き方を支援

1 シニア就業応援プロジェクト

- 生涯現役で新たな仕事や働き方にチャレンジできるように「東京セカンドキャリア塾」で意欲あるシニア及びシニア予備軍を支援。
- 都内の高齢者就業に携わる公的機関等が一堂に集まる「シニアしごとEXPO」等を実施し、シニアの就業拡大の機運を醸成。
- 企業のシニア雇用を支援するため、セミナーやコンサルタント派遣により、採用から定着までを支援。
- 高齢者を派遣社員として企業に短期的に就業させる「東京キャリア・トライアル65」を実施し、マッチングを支援。

「東京しごとセンター」において、就業相談やマッチングなど 高齢者の雇用就業に関する総合的なワンストップサービスを提供

2 東京しごとセンターにおける雇用就業支援

- 就業を希望する高齢者に対して、経験や職歴等の実績に応じて就業相談を実施
- ハローワークと連携し、職業紹介を通じた就職支援を行う他、再就職活動を支援する各種セミナー等を開催。

シルバー人材センター及びアクティブシニア就業支援センター に対する経費助成等の支援を通じ、地域における高齢者の就業機会を確保

3 はつらつ高齢者就業機会創出の支援

- 地域での就業を希望する高齢者のために、区市町村が地域の高齢者に対する就業相談、就業情報の提供、あっせん等を行うための拠点(アクティブシニア就業支援センター)に対してその経費の一部を助成。
- 高齢者のニーズが高い地域での就職を支援するイベント「シニア就業支援キャラバン」や地域別合同面接会を開催

4 シルバー人材センター等に対する支援

- 東京都シルバー人材センター連合による事業((公財)東京しごと財団にて実施)
 - ・会員向け人材開発の講習や広域企画提案のほか、労働者派遣事業の拡大、人材情報バンクの整備、「これからシルバー応援 FESTA」、安全就業の推進等の実施より、シルバー人材センターの会員数と就業機会の拡大を図る。
- シルバー人材センターに対する助成
 - ・臨時的かつ短期的または軽易な就業を通じて「健康作り生きがい作り」を会員に提供するため、運営等に要する費用について補助を行う区市町村に対して、その補助に要する経費の一部を助成。

東京都が実施する施策② ポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」

生活文化スポーツ局
令和4年5月

サイト概要

令和3年11月開設(事務局：東京都つながり創生財団)

現在、約8,500人の個人ユーザー、約55の団体ユーザーが登録

⇒シティキャスト(都市ボランティア)などの大会関連ボランティアをはじめとした、ボランティア活動希望者の活躍の場を広げるための支援をおこなう



《サイトの特徴》

○ **選べる!** 多彩な情報の中から、興味・関心や地域にあった活動が選べる

大型ボランティア情報サイト(『ボラ市民WEB』(TVAC)・『スポボラ.net』(日本スポーツボランティアネットワーク))との情報自動連携のほか、個別の登録団体の活動情報も多数掲載

○ **学べる!** ボランティアの魅力などを伝える、読み物コンテンツの発信

著名人のインタビューや活動のヒントになる記事を掲載し、ユーザーのモチベーションアップや団体のPRにつなげる

○ **交流できる!** 投稿機能の活用による、ユーザー同士の交流の場の提供

体験談や活動レポートなどの投稿やコメント機能を提供し、ボランティア参加者や団体による**双方向のコミュニケーション**を促進



東京都が実施する施策② ポータルサイト「東京ボランティアレガシーネットワーク」

《活動情報の紹介》

このスクリーンショットは、東京ボランティアレガシーネットワークのポータルサイトの活動情報一覧ページを示しています。一覧には、主催団体、開催日時、イベントの星の数、およびイベントのタイトルが記載されています。

開催日時	星の数	イベント
2021.12.13	★7	【2/5開催】国際化市民フォーラム In TOKYO
2021.12.27	★8	東京都美術館×東京藝術大学「とびらプロジェクト」フォーラム
2021.12.27	★5	セミナー・講演会 語学ボランティアオリエンテーション参加者募集
2021.12.28	★5	イベント 東京ボランティア・市民活動センター運営委員会企画シンポジウム
2021.12.28	★6	イベント 市民社会をつくるボランティアフォーラムTOKYO2022
2022.01.07	★4	セミナー・講演会 さすなメールやさしい日本語版原稿のルビふりボランティア説明会
2022.01.27	★3	イベント オンラインのぐる国際交流フェスティバル
2022.02.01	★4	セミナー・講演会 \【2/16(水)開催】やさ日フォーラム参加者募集！/\

希望の地域・分野、必要スキルなどに応じて情報の入手が可能

《体験談等の投稿》

このスクリーンショットは、ポータルサイトに投稿された「とびらプロジェクト」フォーラムに参加したユーザーの体験談の投稿ページを示しています。投稿にはイベントの概要、開催日時、活動内容、および参加した活動のリストが含まれています。

体験談・活動レポート：体験談詳細

「とびらプロジェクト」フォーラムに参加しました

開催日：2022.01.28

活動地域：東京都全域 台東区

活動分野：文化・芸術

参加団体：公益財団法人東京都歴史文化財団

参加した活動：東京都美術館×東京藝術大学「とびらプロジェクト」フォーラム

「とびらプロジェクト」とは

皆さんは「とびらプロジェクト」をご存知でしょうか。

とびらプロジェクトとは、土曜会館にある東京都美術館（都美館）が2012年にリニューアルした際に出発した事業です。都美館と東京藝術大学が連携し、アートを通してコミュニティを育むことを目的としています。広く一般から募集されたアート・コミュニケーター（简称：とびら）が美術館を舞台として様々な活動をしています。

美術館に多く多様な人々をつなぐとびらには「サポーターではなくプレーヤー」であり、学芸員や各種分野の専門家による講座や学び、お互いに対話しながら、「この館とまれ」方式のネーディング（とびら）から様々な企画を立ち上げてきました。赤ちゃんと一緒に鑑賞会を楽しむ「ベビーカーツァー」、美しい建築ライトアップの魅力を伝える「トビカシマカン・カイクン・ツアー」、誰もが知る方々のための「とびらラジオ」、子どもたちが鑑賞の思い出を持ち帰ることができる「とびらボードでGO!」...etc.

今ではとびらプロジェクトやとびら、都美館にとってなくてはならない存在となっています。

個人の体験談や団体の活動レポートを広く共有することが可能

都内区市町村が実施する施策① 八王子市 「てくポ」

- スマートフォンアプリを活用した介護予防ポイント制度であり、ウォーキングや脳トレのほか、ボランティア・イベント参加等によりポイントが貯まる。貯めたポイントは市内の店舗等で使用することが可能

サービス名	てくポ
事業者 (開発者)	八王子市
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 65歳以上の高齢者
対象とする社会 参加活動	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア
マッチングの内容	<ul style="list-style-type: none"> 「てくポ ボランティア活動受入機関一覧」を公開し、ボランティアを希望する高齢者に活動の場を提供する施設、団体等を紹介 (今後、アプリ上でマッチングができる仕組みを構築予定)
サービス概要	<ul style="list-style-type: none"> 個々人の健康関連の取組みにより、八王子市内の店舗等で活用できるポイントを貯めることができる制度。アプリによって運営されている。 健康増進を目的とした取組みであるが、その中の一つの柱として「ボランティア活動」も対象に含めている。 ボランティア活動への参加方法としては、活動受入先一覧から参加希望者が活動先を選び、参加の手続きを行うというもの。 活動受入れ施設は、介護施設をはじめとして子ども食堂や牧場、病院・診療所等があり、 東京都「次世代ウェルネスソリューション構築支援事業」にも採択されている。



(出所) 八王子市Webサイトを基に日本総研作成

都内区市町村が実施する施策② 渋谷区 渋谷生涯活躍ネットワーク「シブカツ」

- 生涯活躍を目指すプレシニア期以降の方々のための活動マッチング施設。
- 相談者に対するヒアリング等を通じて、興味がある活動についての相談・探索支援を実施。

サービス名	渋谷生涯活躍ネットワーク「シブカツ」
事業者 (開発者)	渋谷区
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 渋谷区在住の概ね55歳以上の方 渋谷区内にてボランティア活動等を行う（予定の）方（※一部サービス除く）
対象とする社会 参加活動	<ul style="list-style-type: none"> 自己啓発・趣味活動（ボランティア）
マッチングの内容	<ul style="list-style-type: none"> 自己啓発・趣味活動（ボランティア）への参加を希望する高齢者と、こうした活動を提供する企業、NPO・ボランティア団体等とをマッチング
サービス概要	<ul style="list-style-type: none"> プレシニア～アクティブシニア世代の方がいつまでも楽しく元気に活躍し続けられるよう、それぞれの経験や能力を活かすことのできる機会や新たな学びの場などを提供。 各種活動に関する相談・探索支援の他、学習機会を提供する区民大学も設置。区内大学や企業などと連携した講座への参加ができ、受講するごとに単位を取得することが可能。 渋谷区が実施しているさまざまな講座やイベント、地域で活動している団体情報も発信（ワークスペースにおいて検索・図書の閲覧が可能）。



【シブカツについて：HPより】

- 「何かを始めたいとは思っているけど、何をすればいいかわからない…。」、「共通の趣味を持っている仲間を探したい。」、「地域の活動に参加したい。」などのお問い合わせに対し、専用の相談窓口を開設して、皆様の生きがいづくりをサポートします。
- 他にも、各種講座・イベントの開催などを行います。皆様の「やりたいこと」が見つかる場所です。

(出所) 渋谷生涯活躍ネットワーク「シブカツ」Webサイトを基に日本総研作成

都内区市町村が実施する施策② 渋谷区 渋谷生涯活躍ネットワーク「シブカツ」

- 「シブカツ」では、相談対応・活動とのマッチング支援の他、各種活動情報の公開や区民大学「渋谷ハチコウ大学」での講座提供等を行っている。

■シブカツでできること

相談対応・マッチング	<ul style="list-style-type: none"> 興味がある・参加してみたい活動やこれまでの仕事などの経験で培ってきたスキルなどをヒアリングしながら、相談者一人ひとりに合わせて、さまざまな活動を紹介。
シブカツの講座・セミナー、その他イベント・団体活動情報の提供	<p>【渋谷ハチコウ大学その他の参加型イベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 区内の大学や企業と連携し、新たな学びの機会を提供する渋谷ハチコウ大学の開校。 また、新しい働き方のセミナー・講演会やボランティア活動を紹介するイベントなど、シブカツが独自に提供するさまざまな参加型イベントの情報を公開。
	<p>【シブカツ以外の区の事業や活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> シブカツ以外の区が実施している講座やイベントなども公開。また、区が支援するさまざまな活動の中から、相談者の希望に沿った活動を紹介。
	<p>【地域のさまざまなコミュニティとの結びつきの支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 渋谷区のNPO法人や区民が主体の地域コミュニティ・地域活動団体について、総合窓口となり紹介。活動内容によって分類して案内し、区民と地域との結びつきを支援。

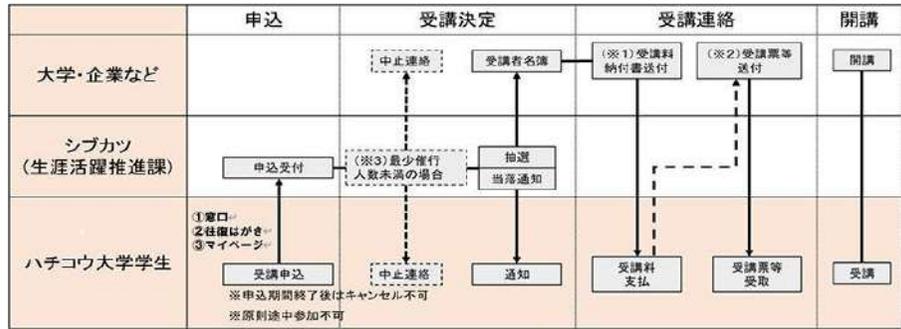
■「渋谷ハチコウ大学」について

- 渋谷ハチコウ大学は、自らの生涯現役を考える・探すきっかけとして、S-SAP（シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー）協定を締結している区内大学や企業と連携し、新たな学びの機会を提供する区民大学。
- 単位認定**も行われ、認定単位数に応じて**受講料の半額補助、表彰**も行われる。

<大学講座（例・一部抜粋）>

今日着たい服が今日できる!(学校法人文化学園)、藍で染める・描く(学校法人文化学園)、ゆっくり楽しく韓国語入門1(東海大学)、世界のオレンジワインを試飲する(東海大学)、『大和物語』を読む(聖心女子大学)、日常生活と聖書(聖心女子大学)、「睡眠」と「健康」の知恵袋講座～人生100年時代！暮らしに役立つ睡眠と健康の知恵袋～(明治安田生命保険相互会社)

<受講の流れ>



(出所) 渋谷生涯活躍ネットワーク「シブカツ」Webサイトを基に日本総研作成

都内区市町村が実施する施策③ 北区 「いきがい活動センター」

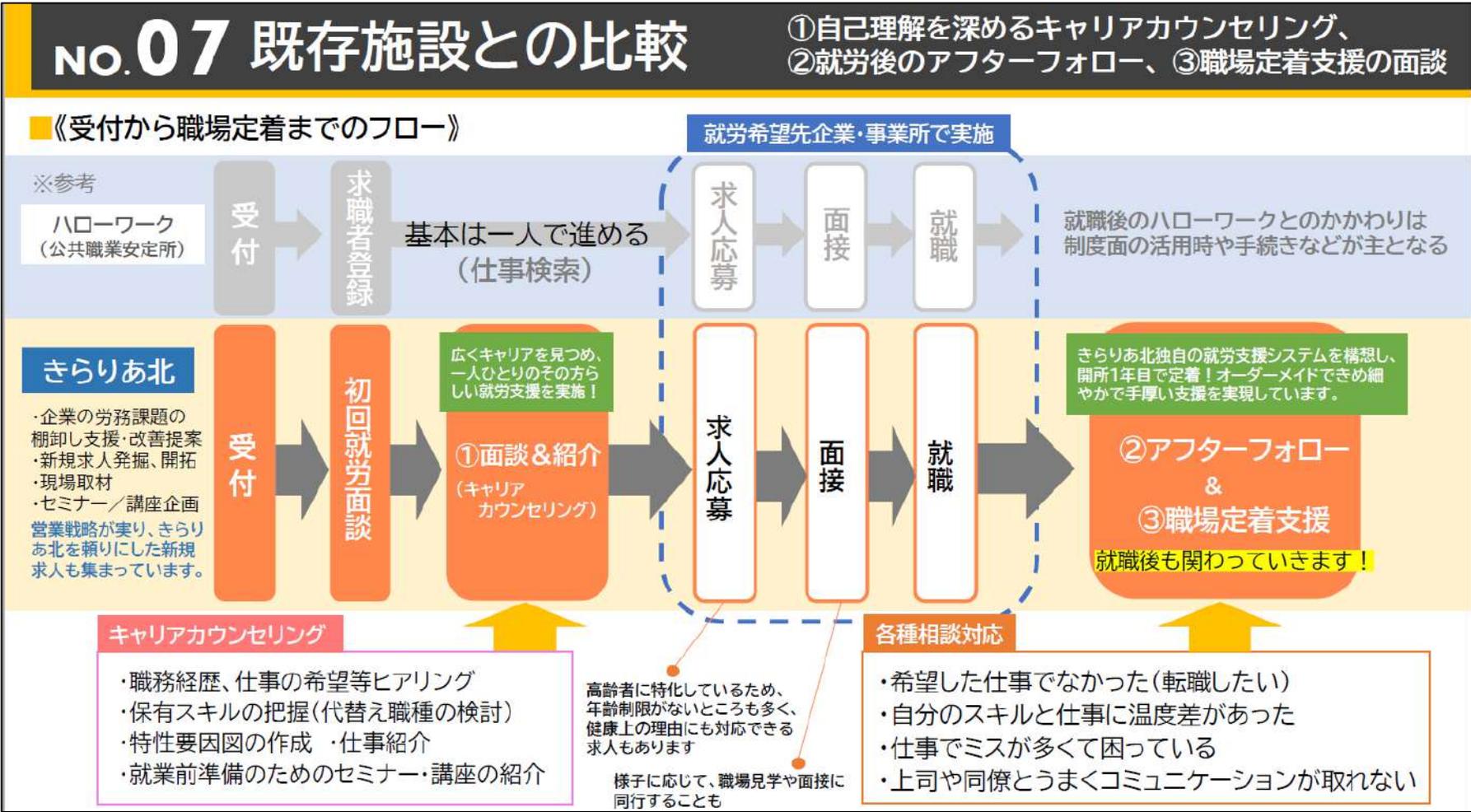
- 東京都北区では、社会参加を希望する高齢者と各種活動のミスマッチを解消することを目指し、人生100年時代に向けたあらたな活動拠点として、高齢者のいきがいづくりを進めるためのワンストップ窓口を有する「いきがい活動センター」を令和3年1月に開設。



(出所) 第41回ESSENCE (高齢者就労支援) 研究会資料「東京都北区における高齢者就労支援の取り組み」

都内区市町村が実施する施策③ 北区「いきがい活動センター」

- 「いきがい活動センター」では無料職業紹介機能を有し、就労希望を持つ高齢者に対して丁寧なキャリアカウンセリングや、就労後の職場定着支援を行っている。
- さらに、新規求人発掘・開拓を行っており、当施設を頼りとした新規求人を集めることに成功している。



民間企業（団体）が実施する施策① 「GBER」

- 東京大学にて開発されたGBERは高齢者に特化した就労マッチングサービス。近年自治体での導入が相次いでいる。

サービス名	GBER
事業者 (開発者)	一橋大学 ソーシャル・データサイエンス教育研究推進センター 檜山 敦 教授 (東京大学 先端科学技術研究センター 特任教授)
対象者	元気高齢者を主とした社会参加と就労を希望する高齢者
対象とする社会 参加活動	就労促進を指向して、ボランティア、生涯学習、趣味活動等を含む地域活動とのマッチングプラットフォームとして活用。
マッチングの内容	求人情報とシニアをマッチング 「モザイク型就労」と呼ばれる、数時間単位あるいは得意とするスキル単位でのマッチングを志向
サービス概要	<ul style="list-style-type: none"> GBERは「Gathering Brisk Elderly in the Region = 地域の元気なシニアを集める」の頭文字。 ICTが苦手な高齢者にとっても使いやすい工夫がされていることが特長。 就労希望者はアプリに名前、住所、取得資格や技能、得意なこと苦手なことなどを登録。求人する側は勤務場所と時間、活動内容や求める技能などを登録する。 就労希望者の入力内容、活動履歴、フィードバックのデータに基づき地域活動をソート。タスク分解された、短時間でできる仕事を想定している。 求人事業者にはGBERを通じて職業体験会、ボランティア、インターン等の募集ステップを踏んで仕事の募集へ進む活用を推奨する。

シニアの柔軟な働き方：モザイク型就労



自治体での導入事例

- ✓ 千葉県柏市 (2016年より一般社団法人セカンドライフファクトリーにて継続運用)
- ✓ 熊本県 (シルバー人材センターなどと連携)
- ✓ 東京都世田谷区 (2020年度末から導入。初めて会員を持つ団体ではなく、地域企業と一般シニアへの就業に絞って導入)
- ✓ 福井県 (2021年度末から導入開始)

(出所) 一橋大学檜山敦氏提供資料、各種公開情報を基に日本総研作成

民間企業（団体）が実施する施策①「GBER」

GBER : Gathering Brisk Elderly in the Region（地域の元気シニアを集める）

シニア労働力の特性として個人で働くことにかかる制約を克服する、複数人の力を合わせて地域の困り事を解決する**モザイク型就労**と、個人目線で就労・社会参加の機会を拡大する**ウェブアプリ『GBER』**(PC/スマホ/タブレットのブラウザから利用できる)

様々な地域活動とのマッチング



GBER: 地域活動へのマッチングプラットフォーム



地域参加できる予定管理 生活圏内の地域活動を検索 興味関心を手軽に入力

想定する利用者

対象範囲
(扱う情報の質)

利用者の目的

生まれる関係

既存のマッチング
ツール

学生・転職希望者

アルバイト
(チェーン店舗：飲食・小売・物流)
新卒・転職(企業)

お小遣い稼ぎ
就労

雇用主と労働者

GBER

シニア中心
(健常者～障がい者)

趣味、生涯学習、仕事、
ボランティア等
(地域を知り地域の困りごとへの貢献)

一人ひとりの多様な目的に応じた
地域参加

地域との繋がり、インクルーシブ
なコミュニティの醸成

(出所) 一橋大学檜山敦氏提供資料

民間企業（団体）が実施する施策①「GBER」

- 世田谷区では、令和3年度に、就労を希望する高齢者と地域の事業者をつなぐ情報プラットフォームとして東京大学先端科学技術研究センターが開発したGBERを活用したモデル事業を実施。
- 令和4年度からは世田谷ボランティア協会にて、「世田谷版GBER」としてボランティアのマッチングサイトが運用開始。

概要

- GBERとは、「趣味や技術、経験を生かしたい」「地域で活動したい」という、ボランティア活動をしたい方の経験や意欲などと、サポートを求める方や団体などを結び付け、ボランティア活動を支援する、東京大学先端科学技術研究センターが開発したAIシステムによるマッチングサイト。
- 世田谷区では、シニアと地域の事業者が出会い、「地域」から新しい働き方を実現していくことを目指し、令和3年にGBERを活用したモデル事業を実施。令和4年度からは世田谷ボランティア協会にて、「世田谷版GBER」としてボランティアのマッチングサイトの運用が開始されている。

令和3年度モデル事業について

- 令和3年1~12月のモデル事業時間に、86名の参加者が登録。多様な経験や専門性を持った方々が参加。
- 利用者は、GBERにプロフィール等を登録。仕事を検索し、関心のあるものに応募し、各事業者による選考を経て受理された場合には業務に従事する。
- モデル事業参加の目的は、「自分のこれまでの経験値や専門性を活かす」「家の近くでやれる仕事」といった回答が多くみられた。
- 事業者側では、27社の事業者が参加し、75件の募集案件が掲載された。分野としては、介護、子育て、障がい者支援といった福祉分野が70%と最も多かった。
- マッチング利用者からは「工事現場で働くことは初めてで、建設業界の習慣や仕事の進め方など、知らないことが多く、興味深かったです」「自分の得意なことを活かす仕事に出会えたこと、また家の近くの福祉施設のみなさんの働く思いに触れることができました。」といった声が聞かれた。

GBERの利用イメージ（世田谷ボランティア協会）



GBERは「5つのタブ」で構成されており、これらを切り替えることで様々な機能を利用することができます。

ホームタブ おススメの活動やお知らせの確認などを行うことができます。	マイページタブ 申請中の活動などの確認やプロフィールを編集することができます。
応募タブ ボランティア活動に応募することができます。	予定表タブ 予定の確認や、予定を追加・削除することができます。
通知タブ 管理者が発信した情報を確認することができます。	GBER

(出所) 世田谷区経済産業部 工業・ものづくり・雇用促進課「R60-SETAGAYA-ハンドブック」、世田谷ボランティア協会、世田谷区「AIシステムによるマッチングサイト『世田谷版GBER』利用マニュアル」を基に日本総研作成

民間企業（団体）が実施する施策② 社会参加プラットフォーム「GRANT」

<https://grant.community/>

オンラインのシステムを活用することで、NPO・地域団体が必要とする実行力ある「担い手」とのマッチングを最小限の労力・負荷で実現することをサポートします。

「GRANT」画面イメージ



サービスグラントでは、2009年の活動開始以来、累計で約600名を超えるプロボノプロジェクトを運営しています。このページでは、これまでで200名以上の応募した団体を中心に、サービスグラントに参加しているNPO・地域団体の募集ページの中から、募りたい内容を自由に検索できるプロジェクトをご紹介します。



ちよこっとプロボノ
募集の中心

わ！しながわ
しながわプロボノ
募集の中心

区市町村や日常生活圏域など任意の地域単位で担い手を募集するページを立ち上げられます。



NPO法人プラチナ美容塾
募集の中心

イベント・講座のチラシ作成
募集の中心

募集期間: 2024年07月11日 - 2024年07月11日

2/27 掲載中

NPO法人プラチナ美容塾について

プラチナ美容塾は、高齢者、全層を必要とする方々へ美容ボランティア募集、全層ボランティア募集、生活講座、イベントサポート派遣、美容師・美容師候補生を主な事業としている認定NPO法人です。美容師ボランティアの活動内容は、高齢者団体の利用者サポートとネイルケア・メイクをコミュニケーションツールとして展開して、笑顔になって頂くこと、当初は、プラチナ世代（50歳〜）の女性が活動を行っていましたが、現在は、

新たな担い手を求める地域団体は、直感的な操作で「求人情報」のページを作成できます。

マッチングの流れと提供機能




- ① 希望する支援内容を募集

提供機能①
プロジェクト紹介ページ
- ② 応募者からのエントリー

提供機能②
エントリー受付
- ③ 面接等による選考

提供機能③
面談・マッチングサポート
- ④ プロジェクトを進行

提供機能④
プロジェクト進行管理
- ⑤ 目標達成・成果物完成

提供機能⑤
アセスメント

※プロジェクトの目安は最短1日～最大3ヶ月間。
システム利用にかかる費用は無期限で**無料**です
全工程をオンラインで管理できます。

民間企業（団体）が実施する施策② 社会参加プラットフォーム「GRANT」

サービス名	GRANT（ Grant ）
事業者（開発者）	認定NPO法人サービスグラント（東京都）
対象者	<ul style="list-style-type: none"> • 仕事の経験やスキルを活かしたいと考える社会人 • 組織や活動運営においてサポートを求めるNPO法人等
対象とする社会参加活動	<ul style="list-style-type: none"> • 有償/無償ボランティア
マッチングの内容	<ul style="list-style-type: none"> • 情報発信、事業計画、業務改善、ツール導入・活用、動画作成、アドバイス、講師 など
サービス概要 (2022/5/15時点)	<ul style="list-style-type: none"> • 仕事や培ったスキルや経験を生かし、NPO等の市民活動団体を支援したいと考える主に企業人900名が登録 • NPOや地域団体など、課題解決の実行や運営の担い手として支援を必要とする246団体が登録し、いつでも情報掲載、プロボノの募集をすることができる • 東京、大阪を中心に、中間支援団体や社会福祉協議会など36のコーディネーター団体の登録があり、それぞれの条件に合わせたプロボノのマッチングを実現 • プロジェクト情報、応募者の管理、面接設定やプロジェクト進行まで全てオンライン上のシステムにより管理が可能 • 企業の社会貢献活動の促進として、会社や組織単位のマッチング実績の確認も可能 • これまでの成立は160件（完了125件、進行中35件）
実施エリア 実施テーマ	<ul style="list-style-type: none"> • 東京都 品川区、中野区、豊島区、八王子市、三鷹市、府中市、町田市 • 神奈川県 横浜市、横須賀市 • 大阪府 池田市、守口市、寝屋川市、四條畷市、此花区 • 三重県 四日市市／滋賀県 甲賀市／千葉県 松戸市 • こども食堂／災害支援 etc

ウェブサイト制作・改修



プロボノワーカー オンライン

既存のウェブサイトの改修

しばさき彩ステーション
📍 調布市
👤 WEBディレクション・情報アーキテクト

チラシ制作



プロボノワーカー オンライン

団体の案内チラシ作成

けめカフェ
📍 品川区
👤 チラシ作成

事業計画・資金調達



講師 有償

スマホ講師

NPO・えん
📍 江東区
👤 ICT活用・講師

講師・先生



プロボノワーカー オンライン

クラウドファンディングの実際を知りたい

なかの生涯学習サポーターの会
📍
👤 ファンドレイジング

他 YouTubeチャンネル立ち上げ、オンライン会議、Excel活用、営業支援、インタビュー記事作成、翻訳 など

(出所) NPO法人サービスグラント岡本祥公子氏提供資料

民間企業（団体）が実施する施策③ シニア向けボランティアコーディネートサイト「YELL」

- ボランティアの力が必要な人や施設と、ボランティアをしたい人や団体がつながる機会を提供し、支え合いの絆を深めることを目指す。主にシニア向けボランティア活動を提供している。

サービス名	シニア向けボランティアコーディネートサイト「YELL」
事業者（開発者）	社会福祉法人奉優会
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 特段の制限や要件はなく、誰でも参加可
対象とする社会参加活動	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア
マッチングの内容	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアへの参加を希望する高齢者と、こうした活動を提供する企業、NPO・ボランティア団体等とをマッチング
サービス概要	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉法人が展開するマッチングサイトであり、自法人事業所における活動の他、その他の団体での活動のマッチングも行う。都内を中心に、周辺自治体のエリアもカバー。 活動パターンとしては、高齢者・障害者・児童施設での活動のほか、公園や道路清掃、防犯・防災、被災地での活動、伝統文化伝承等。 活動内容によっては有償のケースもある。



自分のペースで利用できるから空いた時間を有効活用できる

活動施設の情報がわかるから安心して応募できる

個人の名前など公開されないから安心して応募できる

サポート体制がしっかりしているから安心して活動できる

（出所）「YELL」webサイトを基に日本総研作成

民間企業（団体）が実施する施策④ 「住民参加型在宅福祉サービス」

- 高齢者等で日常生活において福祉サービスを必要とする者を利用会員とし、地域福祉に理解があり家事や介護などを支援する者を協力会員とした地域福祉活動。
- ボランティア活動は「無料」であることが一般的だったが、昭和62年代より、非営利で有料・有償の福祉サービスを行う新しい市民活動として都市部を中心に広がっている。

<p>活動概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 利用会員が協力会員に対しサービス提供依頼を行い、提供後には利用会員から協力会員に対し謝礼金が支払われる仕組み。 • サービスの利用者、提供者ともに団体の会員とし、利用者も時には提供者となるなど、「助け合い」の理念を具体化したもの。 • 運営主体は多様であり、類型としても住民互助型、社協型、生協型、農協型、ワーカーズコレクティブ型などが存在。 • 利用者側にサービス利用を躊躇させないこと等を目的として有償サービスの形式となっている。
<p>サービス団体数</p>	<p>全国2,113団体（令和3年3月末現在）</p>
<p>サービス概要 【主なサービス例】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 家事援助（庭木の剪定、障子張り替え等の生活援助を含む） ✓ 介護、デイサービス ✓ 給食サービス ✓ 送迎サービス、 ✓ その他在宅福祉サービス



渋谷区「やすらぎサービス」



港区「おむすびサービス」



墨田区「ハート・ライン」



品川区「さわやかサービス」

(出所) 住民参加型在宅福祉サービス団体全国連絡会Webサイト、全国社会福祉協議会Webサイト、各区社会福祉協議会Webサイトを基に作成

都外の自治体が実施する施策① 福岡県 「生涯現役チャレンジセンター」

- 福岡県では、平成24年に70歳現役応援センターを設置し、高齢者の就業や社会参加を支援している。
- センターでは県内企業へ高齢者の雇用を働きかけるほか、専門相談員が就労やボランティアを希望する高齢者の個別支援を行っている。さらに、求職者に対して面接対策などのセミナーも実施。

サービス名 (施設名)	福岡県70歳現役応援センター ※福岡県内に4つの拠点を有する
設置者	福岡県
対象者	就業や社会参加を希望するおおむね60歳以上の高齢者 およびキャリアコンサルティングを希望する50歳代の方
対象とする社会 参加活動	就労、ボランティア
マッチングの内容	就労・ボランティアを希望する高齢者と、企業、NPO・ボ ランティア団体とをマッチング
サービス概要	<ul style="list-style-type: none"> 県内企業を訪問し、高齢者雇用に関する働きかけや、高齢者向けの求人を開拓。 専門相談員が、就業やNPO・ボランティア活動などの社会参加を希望する高齢者と個別相談を行い、進路を提案。 対面での相談の他、オンラインでも相談を実施。 就職の仲介のほか、面接の指導や履歴書の書き方なども支援。 高齢者に、地域の子育て現場で活躍してもらうことを応援するため、「ふくおか子育てマイスター」認定のための研修会や手続きについて案内。



(出所) 福岡県生涯現役チャレンジセンターWebサイトを基に日本総研作成

都外の自治体が実施する施策① 福岡県 「生涯現役チャレンジセンター」

令和2年度 センター利用実績等

■ 高齢者向け(60歳以上)のセンター独自求人開拓



※ 主な求人業種

- ・サービス業 (41%)
- ・医療・福祉 (30%)
- ・卸売・小売業(8%)

■ 70歳まで働ける企業の拡大

累計 649社

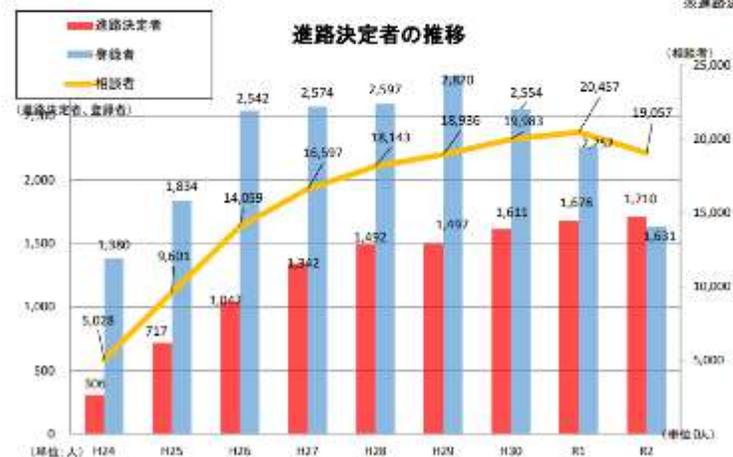
70歳まで働ける企業(内訳)



■ 登録者・進路決定者数

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	計
登録者数(人)	1,380	1,834	2,542	2,574	2,597	2,820	2,554	2,252	1,631	20,184
進路決定者数(人)	306	717	1,042	1,342	1,492	1,497	1,611	1,678	1,710	11,395

※進路決定(就職、社会参加等)



都外の自治体が実施する施策① 福岡県「生涯現役チャレンジセンター」

- 福岡県「福岡県生涯現役チャレンジセンター」では、相談員およびコーディネーターが「何かやりたい」という漠然とした高齢者の思いを受け止め、どのような社会参加がよいか、コーディネートしている。
- 応募者の人柄や健康状態までふまえたマッチングを行っていることで、企業からの評価が高まっており、雇用機会の新規開拓も増えている。

内閣府『高齢社会白書』「コラム4 70歳現役応援センター」より抜粋

福岡県では、「65歳からは高齢者」という意識を改め、年齢にかかわらず、それぞれの意思と能力に応じて様々な形で活躍し続けることができる「70歳現役社会」の実現に向け、平成24年4月に総合的な支援拠点として「70歳現役応援センター」を開設した。

(中略)

センターには、相談員が2名、コーディネーターが2名在籍し、協力・連携をしながら、相談者のニーズに応じていく。相談員が、一人ひとりに応じたアドバイスやカウンセリングを行い、再就職、派遣、起業、NPOボランティア活動など多様な選択肢の中から、相談者とともに今後の進路を設定する。「何かやりたい」という漠然とした高齢者の思いをワンストップ窓口で受け付け、相談員と話していく中で、社会参加がよいか、就業がよいか、それぞれの思いを丁寧に聞いていくことで、高齢者の「漠然とした思い」を具現化していく。そして、その進路に応じた各種セミナーや技能講習の情報、NPO・ボランティア団体の活動情報などの提供や支援機関の紹介、また、就業を希望する人にはコーディネーターが職業紹介を行っている。コーディネーターは、相談者のニーズと、求人企業とのニーズを文字どおり1件1件「コーディネート」しており、就業する日数や曜日、就業時間といった就業形態の調整のみならず、実際に紹介するに先立ち、企業と高齢者の「人柄」のすり合わせをも行っている。

(中略)

コーディネーターは企業の要望を事前に紹介者に伝えることにより、ミスマッチを回避するよう最大限努めている。**企業側としては、コーディネーターを仲介することで、履歴書からだけでは分からない応募者の健康状態や人柄などについての情報を得ることができるとともに、企業が求める人材を採用することができる可能性が高まる。**こうしたやりとりの蓄積がコーディネーターとの信頼関係の構築につながり、人材を追加的に募集したり、他の企業へセンターの取組を紹介するといった「口コミ」でも雇用機会の新規開拓が広がっている。

69歳の女性は、12月よりセンターで紹介された地元の大学病院にある病院入院患者向け図書貸出のボランティアに参加している。女性は、就業の経験がなく、家に一人でいる時間が長く気持ちがふさがちであったところ、夫の勧めもあり、センターを訪れた。センターで紹介されたボランティアに参加するようになり、気持ちが明るくなったという。

(中略)

福岡県の取組は内外メディアの注目を集めており、他県のみならず、韓国からも視察が相次いでいる。こうしたスキームは全国的にも先進的な事例であるといえ、さらには今後、高齢社会となる世界各国における先進的なモデルともなりえるのであろう。

連日、たくさん的高齢者で賑わう応援センター



専門相談員が高齢者一人ひとりの希望にあった進路を提案・仲介



都外の自治体が実施する施策② 千葉県「ちばボランティアナビ」

- ボランティアに興味・関心のある個人とボランティアを必要としている団体に対し、ボランティア活動のマッチングを行う場を提供することにより、自発的な社会貢献活動の促進と支え合いによる豊かな地域づくりの推進を目的としている。

サービス名	ちばボランティアナビ（略称:ちばボラナビ）
設置者	千葉県地域ボランティア事務局 (委託先：JTBコミュニケーションデザイン)
対象者	ボランティアに関心のある個人 ボランティアを募集したい団体
対象とする社会参加活動	ボランティア
マッチングの内容	ボランティアに関心のある個人と、ボランティアを募集したい団体とをマッチング
サービス概要	<ul style="list-style-type: none"> 東京五輪を契機として機運が高まったボランティア活動の更なる普及促進のため、ボランティアを募集したい団体とボランティア活動に参加したい個人とをつなぐサイトを開設。 ボランティア参加希望者は、会員登録を行い、ボランティア募集情報を閲覧・検索および希望する活動への参加申し込みが可能。事前登録した興味・関心のある分野のボランティア募集情報をメールにて受け取ることもできる。 ボランティア募集団体については、事前に事務局の審査・承認を受け、要件を満たした場合に登録が可能。 登録後、ボランティア募集情報を掲載し、団体の活動分野に興味・関心のある個人会員向けにお知らせメールを自動配信することができる。申し込みがあった場合には、その希望者に本システムからメールを送り連絡を取ることが可能。



(出所) ちばボランティアナビWebサイトを基に日本総研作成

都外の自治体が実施する施策② 千葉県「ちばボランティアナビ」

ちばボランティアナビとは

ボランティアをしたい人とボランティアを募集したい団体をつなぐマッチングサイトです。



テーマで探す

自然保護・環境保全	高齢者支援	障がい者支援	子ども・教育	社会教育・生涯学習	スポーツ
文化・芸術	保健・医療	まちづくり	災害支援	人権・平等	国際
動物愛護	その他				

エリアで探す

- 北総エリア
- 東葛飾エリア
- ベイエリア
- かずさ・臨海エリア
- 九十九里エリア
- 南房総エリア

募集対象で探す

学生	社会人	シニア	専門・技術
初心者OK	3時間までの活動	1回きりOK	

(出所) ちばボランティアナビWebサイトを基に日本総研作成

都外の自治体が実施する施策③ 千葉市「生涯現役応援センター」

- 千葉市では社会参加を希望する市内の高齢者向けに、就労やボランティアに関する情報を案内する「生涯現役応援センター」を2017年に開設した。
- 市内の複数の会場での出張相談会やセミナーの実施、高齢者に適した活動先の開拓等を行っている。

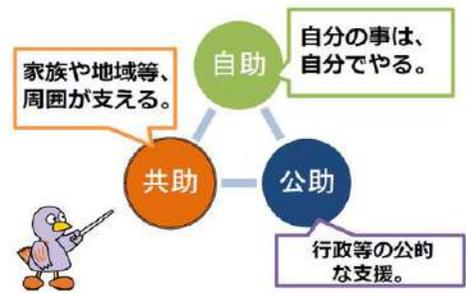
機関名	生涯現役応援センター
設置者	千葉市（令和4年度運営委託先：一般社団法人アクティブシニア応援センター）
対象者	千葉市内における就労・社会参加を希望する概ね60歳以上の方
対象とする社会参加活動	就労、ボランティア
マッチングの内容	就労やボランティアに関心のある個人と、人材を募集している企業・団体等をマッチング
サービス概要	<ul style="list-style-type: none"> 市内に点在するボランティア紹介窓口や、国と市で運営する就労窓口「ふるさとハローワーク」で提供している情報を集約し、相談内容に応じた地域活動を紹介。 2017年8月の開設時点では、相談員2人で担当。 具体的な業務内容は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> 就労やボランティア活動など各種相談及び情報提供 セミナー・講習会等の企画・運営 民間企業・NPO団体等とのイベントの企画・運営 高齢者に適した活動先の開拓 など 利用希望者は来所後に利用者登録をし、希望する活動先の紹介を受けられる。 千葉市シルバー人材センターと合同で出張相談会をしない複数の会場で実施している。

都外の自治体が実施する施策④ 埼玉県「埼玉共助スタイル」

- 「地域や仲間、みんなで助け合う」=「共助」を促進するためのプラットフォーム。経験やスキルを活かしたい専門家ボランティア（高齢者を含む）と、地域の課題解決を目指すNPO等をマッチング。

サービス名	埼玉共助スタイル
事業者 (開発者)	埼玉県
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 専門スキルを活かしたボランティアを行いたい市民（高齢者を含む） 専門スキルを必要とするNPO法人等
対象とする社会参加活動	<ul style="list-style-type: none"> 有償/無償ボランティア
マッチングの内容	<ul style="list-style-type: none"> 地域の課題解決を図ろうとするNPOなどに、経験やスキルを生かして社会貢献したい専門家ボランティアと、助成金、寄附、融資といった活動資金を紹介
サービス概要	<ul style="list-style-type: none"> 仕事や趣味で培ったスキルや経験を生かし、NPO等の市民活動団体を支援したいと考える市民（高齢者を含む）が、「専門家ボランティア」として登録。 専門家ボランティアを必要とするNPO法人等は、登録者リストを検索することが可能。 NPO等の相談を受けて最も適した人材や資金等をマッチングするのは、「専門家ボランティア共助仕掛人」として登録している市民。これは、一定の登録要件を満たしたうえで、共助仕掛人として共助社会づくりに取り組む意欲のある人が登録しているもの。

“共助”(きょうじょ)とは、文字どおり、共に助け合うということです。よく、「自助」「共助」「公助」といわれます。



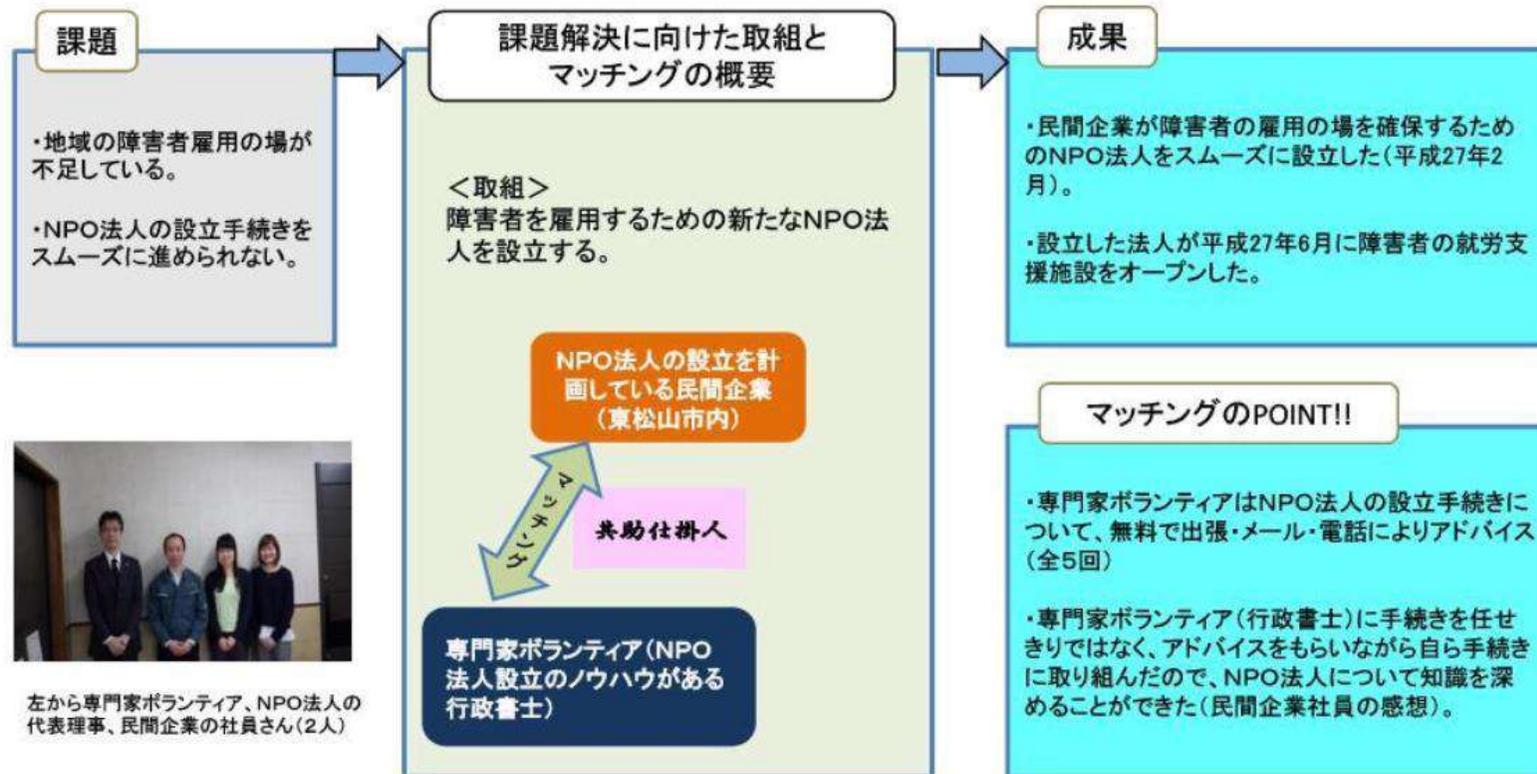
(出所) 埼玉共助スタイルWebサイトを基に日本総研作成

都外の自治体が実施する施策④ 埼玉県「埼玉共助スタイル」

共助の取組マッチング事業（埼玉県） NO3

実施主体：NPO法人の設立を計画している民間企業（東松山市内）

～ 共助仕掛人が民間企業と専門家ボランティア（行政書士）をマッチング ～



4. 区市町村向けアンケート調査結果

シニア・プレシニアと社会活動のマッチング等に関するアンケート調査の概要（2022年7月実施）

- 都内区市町村における高齢者の社会参加マッチング施策に関する現状や課題等について把握することを目的として、都内の全区市町村を対象に実施したアンケート調査を実施。調査の概要は以下のとおり。

シニア・プレシニアと社会活動のマッチング等に関するアンケート調査

調査目的	<ul style="list-style-type: none"> 都内区市町村における高齢者の社会参加マッチング施策に関する現状や課題等について把握すること
調査対象者	<ul style="list-style-type: none"> 都内の62区市町村（区23、市26、町5、村8）
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> Excel形式の調査票を東京都福祉保健局より各区市町村の高齢者福祉主幹課長宛てに電子メールにて発送・回収
割り付け条件	<ul style="list-style-type: none"> 悉皆調査
回収サンプル数/回収率	<ul style="list-style-type: none"> 55件（88.7%）
調査日程	<ul style="list-style-type: none"> 2022年7月12日～26日〆切 ※〆切後も回収を継続し、28日回収分までを対象に集計
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"> シニア・プレシニアと社会参加活動のマッチング事業の取組状況について 社会参加を希望するシニア・プレシニアに対する総合的な相談支援窓口について <ul style="list-style-type: none"> 総合的な相談支援窓口の有無 総合的な相談支援窓口の担い手 総合的な相談支援窓口におけるコーディネーターの体制 シニア・プレシニア向けの社会参加活動の掘り起こしについて <ul style="list-style-type: none"> 社会参加活動情報の把握について 連携している関係機関について 社会参加活動の情報収集の方法 Webサイトを活用したマッチング事業について <ul style="list-style-type: none"> 社会参加活動を掲載したWebサイトの有無 Webサイトの機能 Webサイトにおける社会参加活動の掲載方法 シニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング事業全般について <ul style="list-style-type: none"> マッチング事業を行うにあたって必要な支援 都のwebサイト（オンラインプラットフォーム）構築にあたってのご要望等

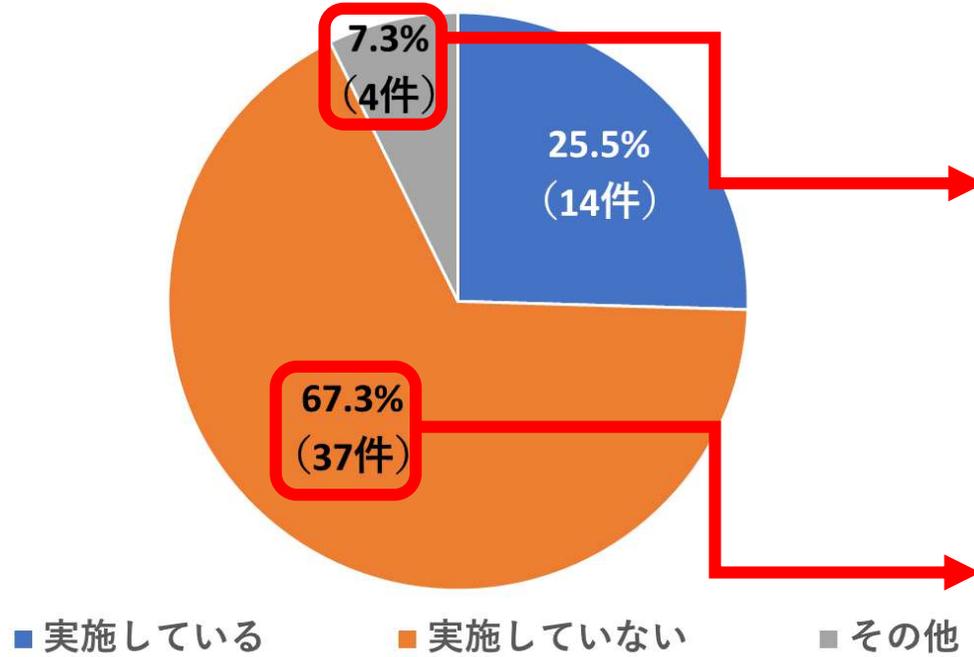
※当アンケートにおけるプレシニアとは概ね50歳～65歳の方を想定

1. シニア・プレシニアと社会参加活動のマッチング事業の取組状況について

- シニア・プレシニアと社会参加活動のマッチング事業を実施している割合は25.5%（14件）であった。

1. シニア・プレシニアと社会参加活動のマッチング事業の取組状況について
貴区市町村における、シニア・プレシニアと社会参加活動のマッチング事業の取組状況を教えてください。

シニア・プレシニアと社会参加活動の
マッチング事業の取組状況（n=55）



【「その他」の内容（自由記述回答から抜粋）】

- 「生活支援体制整備事業」において、生活支援コーディネーターによるニーズと取組のマッチングを行っている。また、区社会福祉協議会ボランティアセンターではボランティア活動についてコーディネートを行っている。*
- 個別相談は実施していないが、事業の中で、様々な社会参加活動を提示等を行っている。
- 日常生活支援総合事業「住民主体の訪問型サービスB」を令和4年度開始した。
- 令和2年度に生活支援コーディネーター、ボランティア・市民活動センター、が中心となり、退職後の社会参加を希望する高齢者と活動団体とのマッチングイベントを検討していたが、コロナウイルス感染拡大のため中止。令和3年度は、活動団体に活動状況や意向調査を実施。令和4年度は検討中。

※生活支援コーディネーターやボランティアセンターにおけるマッチングについては「マッチング事業を実施していない」と回答した67.3%（37件）のうち一部の区市町村でも実施

2. 社会参加を希望するシニア・プレシニアに対する総合的な相談支援窓口について

(1) 総合的な相談支援窓口の有無

- ・ マッチング事業を実施している区市町村のうち、「総合的な相談支援窓口がある」割合は64.3%（9件）であった。
- ・ 「窓口の必要性は感じているが、現状設置できていない」区市町村も14.3%（2件）存在。

2. 社会参加を希望するシニア・プレシニアに対する総合的な相談支援窓口について

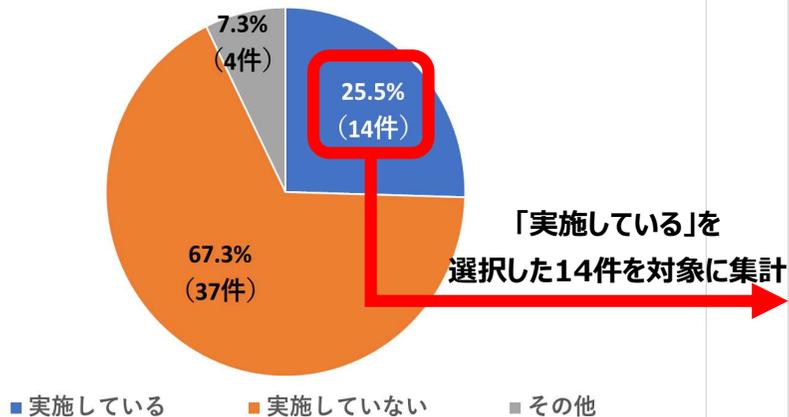
(1) 総合的な相談支援窓口の有無

貴区市町村における、総合的な相談支援窓口の設置状況を教えてください。

※ 1で「ア.シニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング事業を実施している」を選択した区市町村の回答

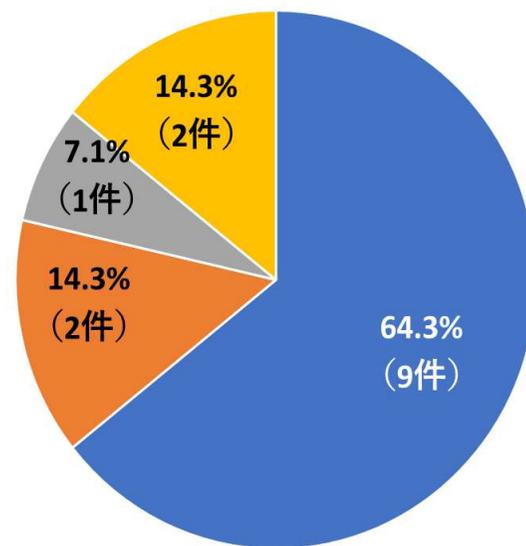
【マッチング事業の取組状況（再掲）】

シニア・プレシニアと社会参加活動の
マッチング事業の取組状況（n=55）



「実施している」を
選択した14件を対象に集計

総合的な相談支援窓口の有無（n=14）



【「その他」の内容（自由記述回答から抜粋）】

- 地域包括支援センターや市で相談を受けている中で高齢者の社会参加の相談があった場合には都度対応している。
- 総合的な相談窓口は設置していないが、生活支援コーディネーターが配置される地域包括支援センターを拠点とし、生活支援コーディネーターが担当圏域内の社会参加に関する地域資源の情報収集に努め、必要に応じて、シニアの社会参加のコーディネートやマッチングを行っている。

- 社会参加を希望するシニア・プレシニアを対象とした総合的な相談支援窓口がある
- 総合的な相談支援窓口の必要性は感じているが、現状設置できていない
- 総合的な相談支援窓口の必要性は感じていない
- その他

2. 社会参加を希望するシニア・プレシニアに対する総合的な相談支援窓口について

(2) 総合的な相談支援窓口の担い手

- 総合的な相談支援窓口を設置している区市町村における「相談支援窓口の担い手」としては「全ての業務を包括的に法人に委託している」が77.8%（7件）で最も割合が大きく、次いで「全ての業務を直営で行っている」が22.2%（2件）であった。

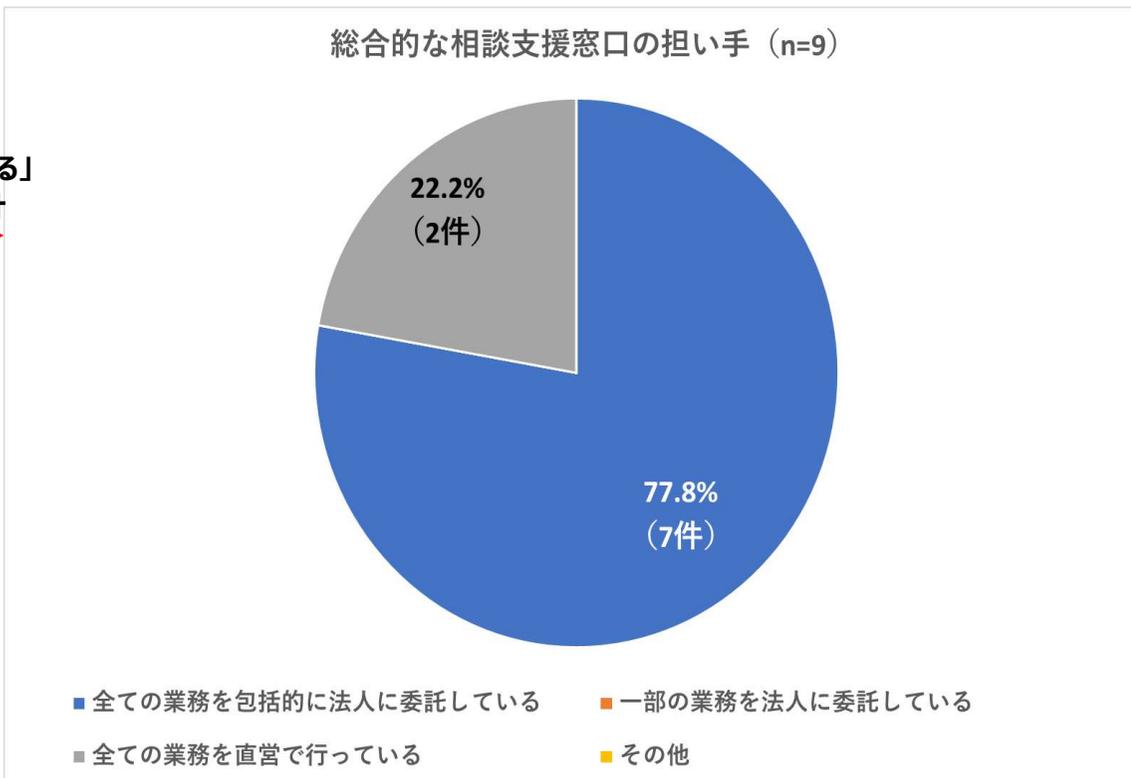
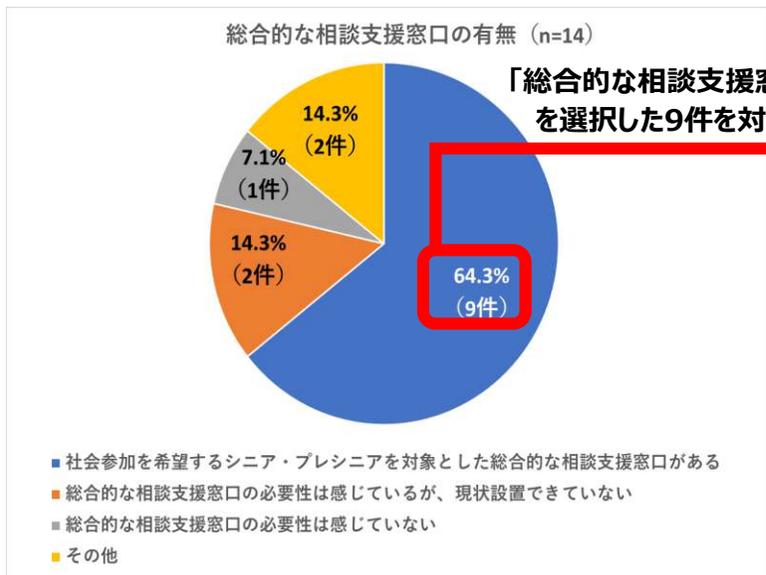
2. 社会参加を希望するシニア・プレシニアに対する総合的な相談支援窓口について

(2) 総合的な相談支援窓口の担い手

総合的な相談支援窓口の担い手について教えてください。

※（1）で「ア.社会参加を希望するシニア・プレシニアを対象とした総合的な相談支援窓口がある」を選択した区市町村の回答

【総合的な相談支援窓口の有無（再掲）】



2. 社会参加を希望するシニア・プレシニアに対する総合的な相談支援窓口について

(3) 総合的な相談支援窓口におけるコーディネーターの体制

- 総合的な相談支援窓口を設置している区市町村における「コーディネーターの体制」としては「専門のコーディネーターが常時1人以上対応できる体制」と「特定の曜日に配置する体制」が33.3%（3件）で最も割合が大きく、「区市町村職員等が業務の合間に対応している」が22.2%（2件）であった。

2. 社会参加を希望するシニア・プレシニアに対する総合的な相談支援窓口について

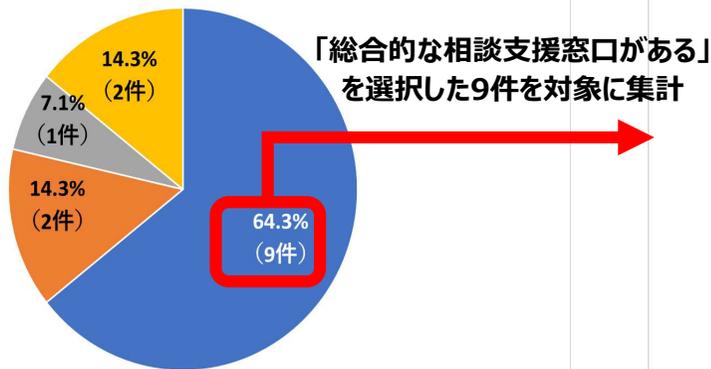
(3) 総合的な相談支援窓口におけるコーディネーターの体制

貴区市町村におけるコーディネーターの体制について教えてください。

※（1）で「ア.社会参加を希望するシニア・プレシニアを対象とした総合的な相談支援窓口がある」を選択した区市町村の回答

【総合的な相談支援窓口の有無（再掲）】

総合的な相談支援窓口の有無（n=14）

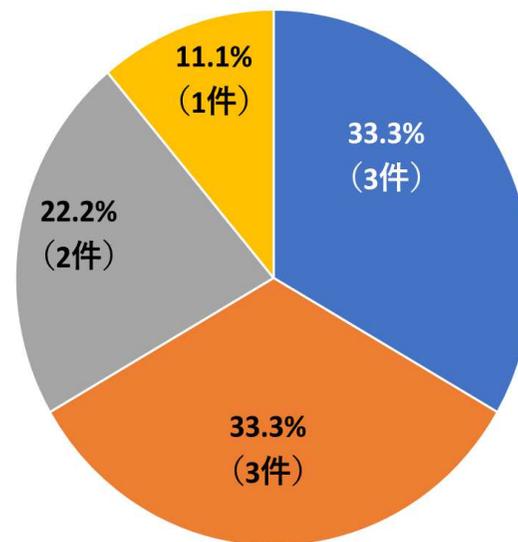


- 社会参加を希望するシニア・プレシニアを対象とした総合的な相談支援窓口がある
- 総合的な相談支援窓口の必要性は感じているが、現状設置できていない
- 総合的な相談支援窓口の必要性は感じていない
- その他

「その他」の内容（自由記述回答から抜粋）

- 専門のコーディネーター（3名）が必要な時に対応する体制をとっている。

総合的な相談支援窓口におけるコーディネーターの体制（n=9）



- 専門のコーディネーターが常時1人以上対応できる体制をとっている
- 特定の曜日に専門のコーディネーターを配置する体制をとっている
- 専門のコーディネーターはいないが、区市町村職員等が業務の合間に対応している
- その他

3. シニア・プレシニア向けの社会参加活動の掘り起こしについて

(1) 社会参加活動情報の把握状況

- ・ マッチング事業を実施している区市町村のうち、「団体や関係機関と連携し、活動情報を幅広く収集している」割合は64.3%（9件）であった。
- ・ 「連携の必要性は感じているが、現状行えていない」区市町村も35.7%（5件）存在。

3. シニア・プレシニア向けの社会参加活動の掘り起こしについて

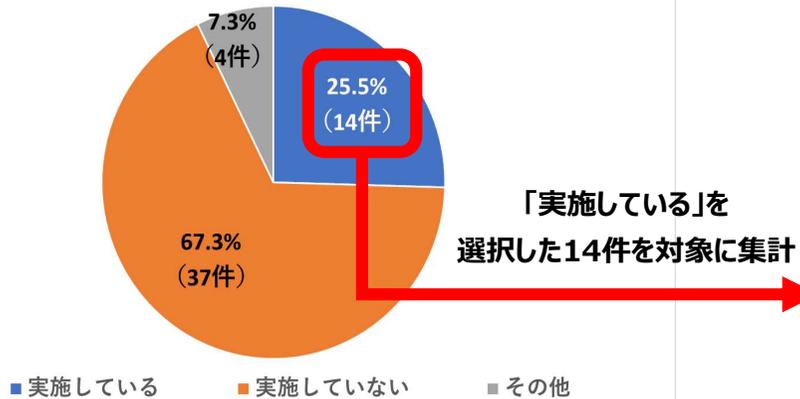
(1) 社会参加活動情報の把握について

社会参加活動情報の把握について、貴区市町村の実施状況を教えてください。。

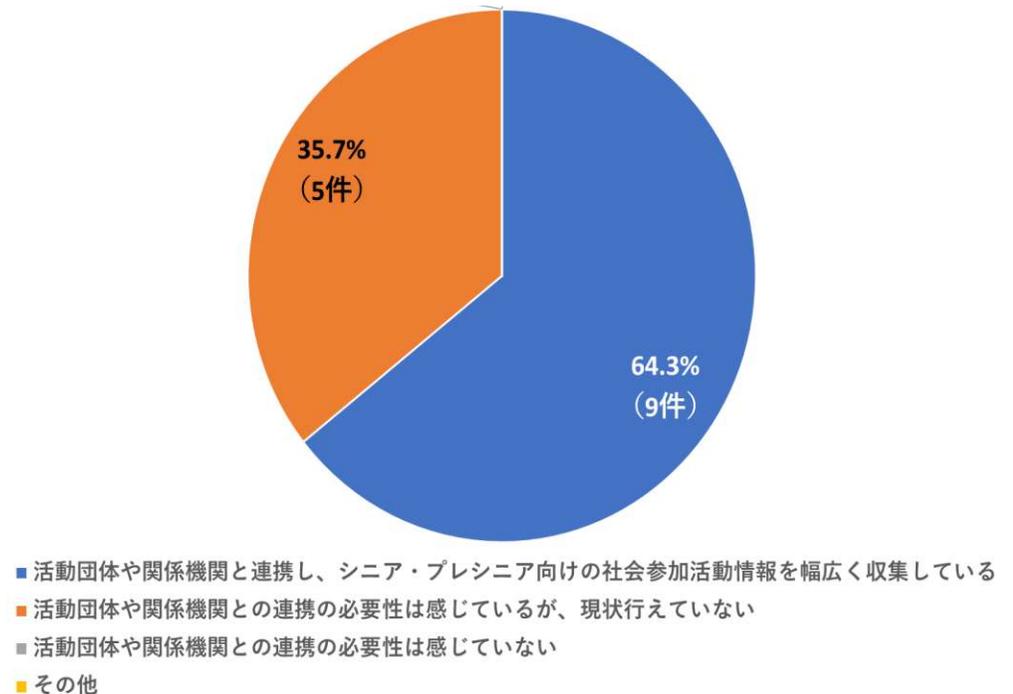
※ 1で「ア.シニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング事業を実施している」を選択した区市町村の回答

【マッチング事業の取組状況（再掲）】

シニア・プレシニアと社会参加活動の
マッチング事業の取組状況（n=55）



社会参加活動情報の把握状況（n=14）



3. シニア・プレシニア向けの社会参加活動の掘り起こしについて

(2) 連携している関係機関について

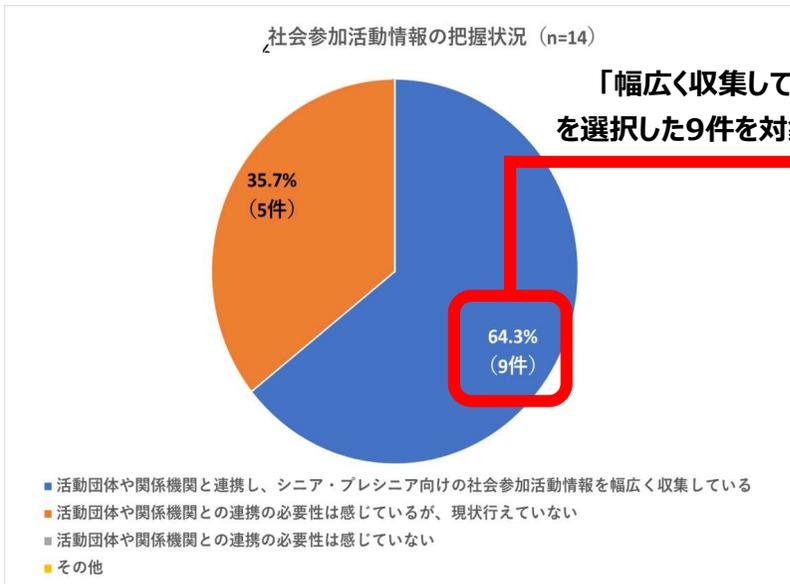
- 社会参加活動情報を「幅広く収集している」区市町村が連携している関係機関としては、「社会福祉協議会」が77.8%（7件）で最も割合が大きかった。

3. シニア・プレシニア向けの社会参加活動の掘り起こしについて (2) 連携している関係機関について

連携している関係機関を選択してください。【複数回答可】

※（1）の設問で「ア.社会参加活動団体や関係機関と連携し、シニア・プレシニア向けの社会参加活動の情報を幅広く収集している」を選択した区市町村の回答

【社会参加活動情報の把握状況（再掲）】



【連携している関係機関（複数回答可）】

	n	%
社会福祉協議会（ボランティアセンター）	7	77.8%
その他のボランティア関連団体	6	66.7%
シルバー人材センター	5	55.6%
その他の就労関連団体	3	33.3%
町内会・自治会	3	33.3%
老人クラブ連合会	3	33.3%
老人福祉センター、老人憩いの家	3	33.3%
民間企業	4	44.4%
その他	0	0.0%
合計	9	

3. シニア・プレシニア向けの社会参加活動の掘り起こしについて

(3) 社会参加活動の情報収集の方法

- 社会参加活動情報を「幅広く収集している」区市町村の情報収集方法としては、「一定の頻度で、関係機関や社会参加活動団体に新規の活動がないか確認を行う」が66.7%（6件）で最も割合が大きかった。

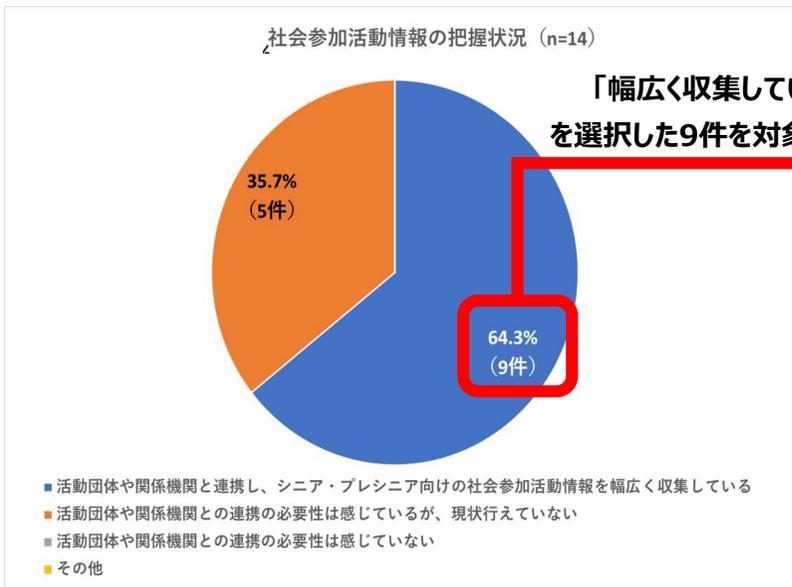
3. シニア・プレシニア向けの社会参加活動の掘り起こしについて

(2) 連携している関係機関について

貴区市町村で行っている社会参加活動の情報収集の方法について教えてください。【複数回答可】

※ (1) の設問で「ア.社会参加活動団体や関係機関と連携し、シニア・プレシニア向けの社会参加活動の情報を幅広く収集している」を選択した区市町村の回答

【社会参加活動情報の把握状況（再掲）】



【社会参加活動の情報収集の方法（複数回答可）】

	n	%
新規の活動が発生した場合、関係機関や社会参加活動団体から情報が送られてくる。	2	22.2%
一定の頻度で、関係機関や社会参加活動団体に新規の活動がないか確認を行う。	6	66.7%
社会参加活動団体側のニーズを確認しながら、新規の活動を開拓している。	3	33.3%
その他	1	11.1%
合計	9	

【「その他」の内容（自由記述回答から抜粋）】

- 高齢者地域活動情報サイトを開設し、区内の関係機関から寄せられる情報の収集・管理を、社会福祉協議会の生活支援コーディネーターを中心に行っている。

4. Webサイトを活用したマッチング事業について

(1) 社会参加活動を掲載したWebサイトの有無

- マッチング事業を実施している区市町村のうち、「社会参加活動を掲載したWebサイトがある」割合は78.6%（11件）であった。「必要性は感じているが、現時点では活用できていない」区市町村も21.4%（3件）存在。

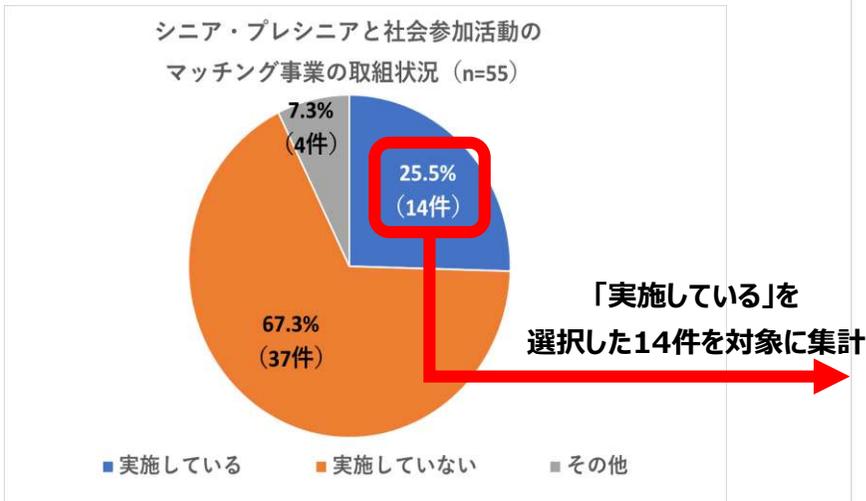
4. Webサイトを活用したマッチング事業について

(1) 社会参加活動を掲載したWebサイトの有無について

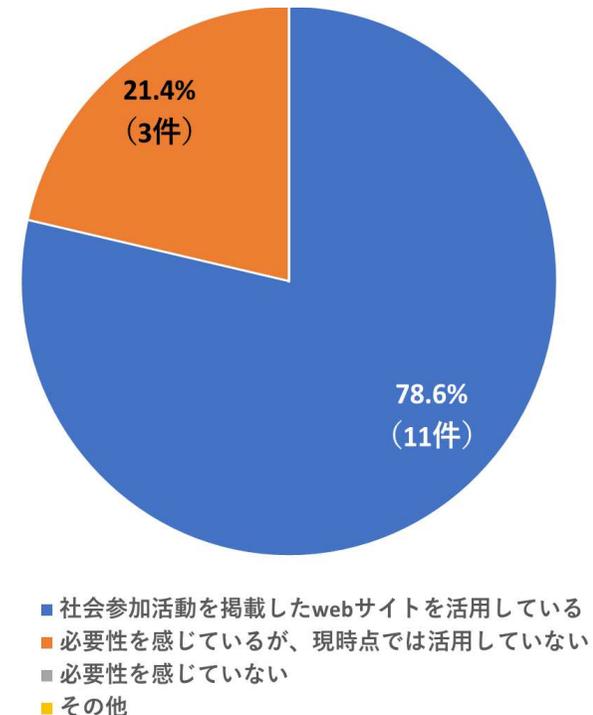
貴区市町村でマッチング事業を行うにあたって、シニア・プレシニア向けの社会参加活動を掲載したWebサイトを活用しているか教えてください。

※ 1で「ア.シニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング事業を実施している」を選択した区市町村の回答

【マッチング事業の取組状況（再掲）】



社会参加活動を掲載したWebサイトの有無 (n=14)



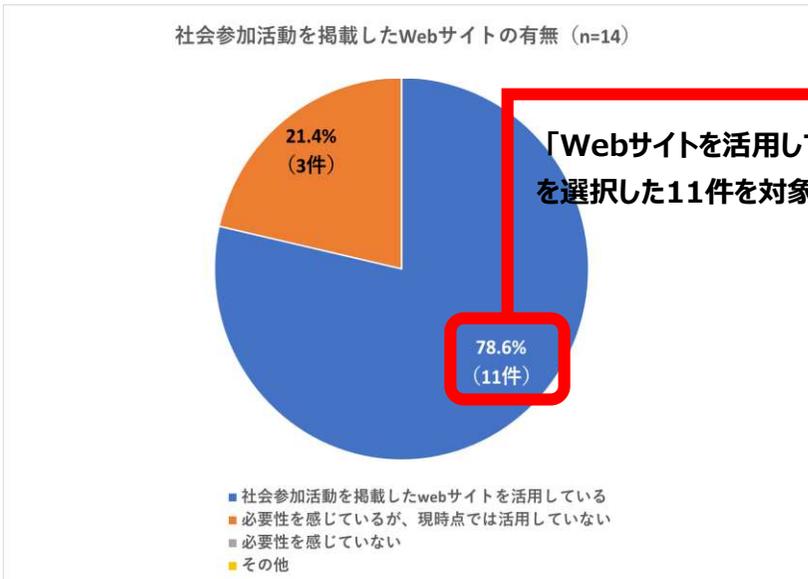
4. Webサイトを活用したマッチング事業について

(2) Webサイトの機能

- 社会参加活動を掲載したWebサイトを活用している区市町村のWebサイトの機能としては、「社会参加活動の案件掲載」に次いで「案件検索」が72.7%（8件）で大きい。

4. Webサイトを活用したマッチング事業について
 (2) Webサイトの機能
 Webサイトの機能を教えてください。【複数回答可】
 ※ (1) で「ア.社会参加活動を掲載したWebサイトを活用している」を選択した区市町村の回答

【社会参加活動を掲載したWebサイトの有無（再掲）】



【Webサイトの機能（複数回答可）】

	n	%
社会参加活動の案件掲載	11	100.0%
案件検索（条件、キーワード等による）	8	72.7%
希望する案件への申込	6	54.5%
利用者登録	6	54.5%
お問い合わせフォーム	6	54.5%
活動の評価	3	27.3%
その他	1	9.1%
合計	11	

【「その他」の内容（自由記述回答から抜粋）】

- サイトは現在、社会福祉法人限定で運用活用しているが、ボランティアを募集する団体登録は外部企業や団体も登録可能なシステムとなっており、今後は徐々に他社展開を進めていく方向となっている。現在使いやすさを追求しシステム改修中。

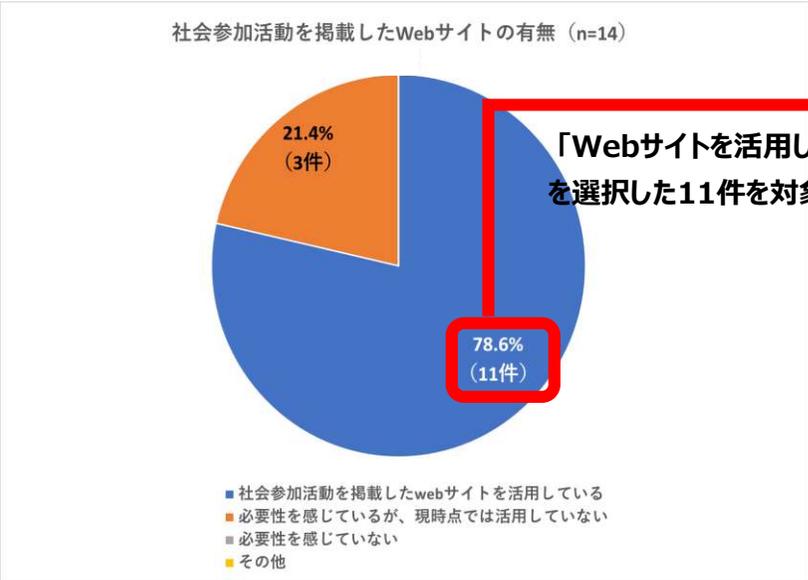
4. Webサイトを活用したマッチング事業について

(3) Webサイトにおける社会参加活動の掲載方法

- 活動情報の掲載方法は区市町村ごとに異なるが、「団体や関係機関がweb上で直接登録する方法」が36.4% (4件) で最も割合が大きかった。

4. Webサイトを活用したマッチング事業について
 (3) Webサイトにおける社会参加活動の掲載方法
 Webサイトに掲載する社会参加活動の情報をどのように集めているか教えてください。【複数回答可】
 ※ (1) で「ア.社会参加活動を掲載したWebサイトを活用している」を選択した区市町村の回答

【社会参加活動を掲載したWebサイトの有無 (再掲)】



【Webサイトにおける社会参加活動の掲載方法 (複数回答可)】

	n	%
社会参加活動団体や関係機関がweb上に新規の活動を直接登録し、webサイトの運営者 (区市町村・委託事業者・補助事業者等) が承認する仕組みを構築している。	4	36.4%
新規の活動が発生した際に、社会参加活動団体や関係機関が運営者にメール等で連絡し、運営者がwebサイトに掲載する。	3	27.3%
運営者が一定の頻度で社会参加活動団体や関係機関に確認を行い、新規の活動があった場合はwebサイトに掲載する。	3	27.3%
その他	1	9.1%
合計	11	

【「その他」の内容 (自由記述回答から抜粋)】

- 区内の関係機関 (行政、社会福祉協議会、高齢者相談センター、ふれあい相談員、いきいきプラザなど) から寄せられる情報の収集・管理を、社会福祉協議会の生活支援コーディネーターを中心に行っている。

5. シニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング事業全般について

(1) マッチング事業を行うにあたって必要な支援

- マッチング事業を行うにあたって必要な支援としては、「相談支援や社会参加活動の掘り起こしを行うコーディネーターの確保に対する財政支援」が76.4%（42件）で最も割合が大きく、次いで「コーディネーターの育成に対する研修等の支援」が70.9%（39件）であった。

5. シニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング事業全般について

(1) マッチング事業を行うにあたって必要な支援

貴区市町村がシニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング事業を行うにあたって、どのような支援が必要と考えますか。【複数回答可】

【マッチング事業を行うにあたって必要な支援（複数回答可）】

		n	%
財政 支援	相談支援や社会参加活動の掘り起こしを行うコーディネーターの確保に対する財政支援	42	76.4%
	Webサイトの構築や保守に関する財政支援	24	43.6%
	相談支援窓口、社会参加活動の情報収集、webサイト等の広報に対する財政支援	26	47.3%
技術的 支援	相談支援や社会参加活動の掘り起こしを行うコーディネーターの育成に対する研修等の支援	39	70.9%
	Webサイトの構築や保守に関する技術的支援	17	30.9%
	相談支援窓口、社会参加活動の情報収集、webサイト等の広報に対する技術的支援	24	43.6%
その他		6	10.9%
合計		55	

5. シニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング事業全般について

(2) 都のWebサイト（オンラインプラットフォーム）構築にあたってのご要望等

- 都のWebサイト（オンラインプラットフォーム）構築に関して、以下のような要望があげられた。

主な自由記述回答（抜粋）

● 活動団体等との調整

- あらゆる分野の活動団体を拾い上げ、掲載了承を得るのは難しいのではないかと考える。また、掲載することによる団体側のメリットに具体性が重要だと考える。
- オンラインプラットフォームの内容が決まってきた時点で、掲載できる内容及び範囲については、法人側との調整が必要になると思われる。
- Webサイトを掲載する団体へ、都からの使用目的や概要についての案内文が必要と感じる。

● 情報の連携が効率的に行われる仕組み

- 既存のWebサイトについてリンクを貼るなどの連携を希望する。
- サイト連携の手間がない形で集約いただきたい。情報連携する際に、こちらで入力や更新の手間が多いと活用が難しい。
- 市域外の情報を把握できることは今後のマッチングの選択肢の幅が広がると感じる。収集している情報の種類や項目は区市町村によって異なると思うので、基本情報をベースとしながら掲載項目を任意で追加できる形にする等、工夫いただけると良いと思う。

● 市の事業との棲み分け

- 市としてはマッチング事業よりも、興味がない層への働きかけが重要と考えており、マッチングの部分を都の事業として広域的にやっていただければ棲み分けができて効率的だと考える。

● 類似事業のwebサイトとの関係

- 類似のサイトが増えると分かりにくいので、東京ホームタウンプロジェクトのホームページの内容と重ならないようにしてほしい。

5. シニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング事業全般について

(3) 自由意見 (1/2)

- シニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング全般に関して、以下のような意見・要望があげられた。

主な自由記述回答 (抜粋)

- **既存の類似事業や仕組みとの棲み分けの整理**
 - 生活支援体制整備事業等、類似の事業が存在しているので、各事業のすみ分け等をお願いしたい。
 - 相談窓口の作り過ぎではないか。シニアには地域包括支援センターがあり、プレシニア（シニア）はボランティアセンターや公民館で生涯学習の所管がある。規模が小さい自治体では、どこかの窓口相談すれば、所管窓口に案内される。
- **企業（受け入れ側）へのアプローチ**
 - 無料職業紹介事業を行う中で、高齢者雇用を積極的に行う企業の少なさに苦慮しており、受け入れ側へのアプローチが最大の課題ではないかと感じている。
- **多世代が活用できる仕組みの整備**
 - 問い合わせがあれば、シニア・プレシニアに限定せず生涯学習関連の講座や各種団体の案内等を行っているため、マッチングする事業の参加可能な対象年齢がわかり、年齢を制限せず多世代が活用できるフォーマットにすると、より広範囲で利便性の高い制度になると考える。
- **男性の社会参加の促進**
 - シニア・プレシニアの男性の社会参加が大きなテーマだと考えている。地域や社会とのつながりは煩わしいと感じる人も多いかもしれないが、より良い社会の実現のためにも、充実した個人の人生のためにも社会参加することが有用であることをどのように伝えるべきか。当たり前社会参加できるような機運を作るような働きかけを国や都にはお願いしたい。

5. シニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング事業全般について

(3) 自由意見 (2/2)

- シニア・プレシニアと社会参加活動とのマッチング全般に関して、以下のような意見・要望があげられた。

主な自由記述回答 (抜粋)

● 目的やアウトカムを意識した仕組みの設計

- マッチングできた件数を成果指標にしてしまうと本末転倒になりかねないので、マッチングを事業化することの目的やアウトカムを見定めて設計していただければありがたい。

● 都民志向の事業の必要性

- 会議体からの総論としての提言・提案に基づき、各論として基礎自治体を実施を求める事業については、市民志向からずれているものが見受けられる。まず、プロトタイプとして、大中小規模自治体に在住する、幅広い年齢層・家族形態の市民を利用者として見立て、実施・検証を行い、市民ニーズに合致していて効果が出ることを確認してから区市町村におろしていただきたい。

● 都民が本音で求めるインセンティブ設計

- 今後、定年延長後の再任用などがあれば、更に、リタイアする時点での高年齢化が進むのではないかと思われ、このような状況にある中で、シニア・プレシニアの地域活動への参加を促進するためには、本音で参加したいと思うインセンティブ設計が非常に重要と思われる。善意に頼るインセンティブでは、現状を変えることは難しく思う。

● 地域の資源や人材を考慮した検討の必要性

- 離島であることから、資源も人材も限られており、本事業を実施したときに有効に機能しない可能性があると考えられる。事業として実施する必要性は低いように感じる。

区市町村向けアンケート調査結果 まとめ

<マッチング事業全般>

- シニア・プレシニアと社会参加活動のマッチング事業を実施している区市町村が全体の1/4程度にとどまっていることや、実施している区市町村においても地域外の情報を把握できることは有効であるという意見があることを踏まえると、社会参加活動の更なる促進に向けて、都が広域的なマッチングの仕組みを整備する等区市町村を支援することが効果的・効率的だと考えられる。
- 区市町村から都民ニーズや地域の資源や人的制約等を考慮した検討の必要性が指摘されており、引き続き都民や区市町村の声を丁寧に確認しながら検討を進めることが必要と考えられる。

<相談支援>

- 生活支援体制整備事業等の一環として、マッチング支援や総合的な相談支援窓口を提供している区市町村も存在しており、既存の類似事業との棲み分けや連携のあり方の検討も必要と考えられる。
- マッチング事業を行うにあたって必要な支援としては、コーディネーターの確保・育成に対する支援を求める割合が8割程度あることから、都として適切な支援を行っていく必要がある。

<社会参加活動の掘り起こし>

- 団体や関係機関と連携して、社会参加活動情報を幅広く収集できている区市町村が存在する一方、連携の必要性を感じつつ、連携が進んでいない区市町村も存在している。

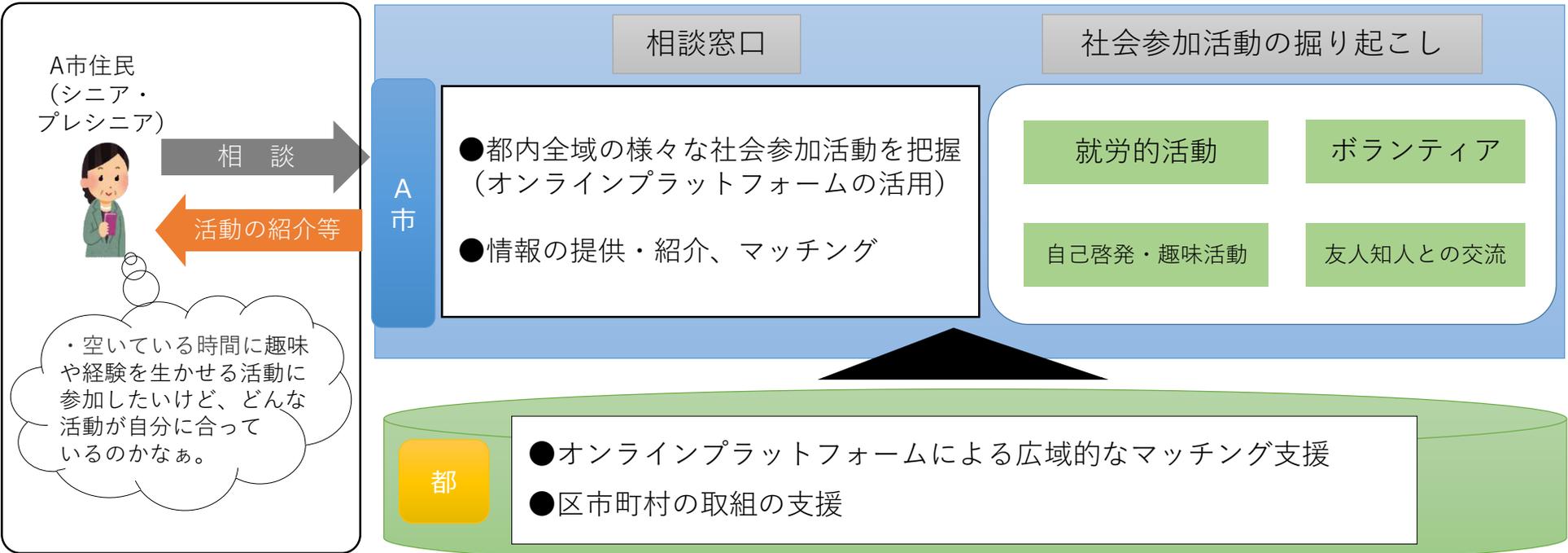
<オンラインプラットフォーム>

- 都のWebサイト（オンラインプラットフォーム）構築に向けては、団体や関係機関との調整の必要性も指摘されており、区市町村、団体、関係機関、都の役割分担や仕組みの整理が必要と考えられる。
- 既存のwebサイトとの情報連携にあたっては、自動で情報を転送する等、効率的な実施が求められている。

5. 社会参加の促進に向けた基本的対応方針 (中間整理)

社会参加マッチング施策の対象と方向性

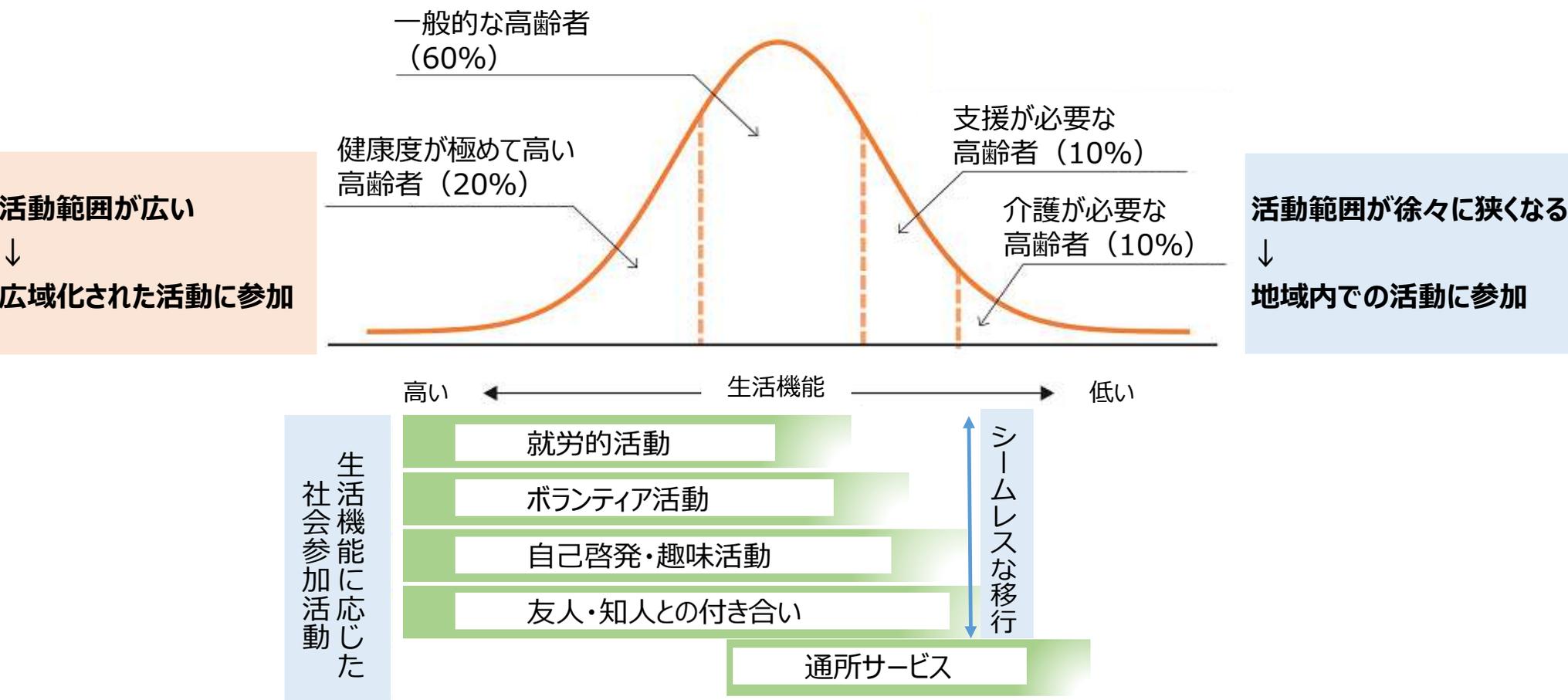
- ・ 漠然とした社会参加の希望を持つが、どんな活動に参加したいか定まっていないシニア・プレシニアを対象とし、具体的な活動とのマッチングを図る事業を推進する。
- ・ 区市町村は、コーディネーターを配置し、シニア・プレシニアに対して、これまでの経験や興味を掘り下げていく丁寧な相談支援（コンシェルジュ的な機能）を行うとともに、就労的活動、ボランティア、自己啓発・趣味活動、友人知人との交流等の様々な社会参加活動の掘り起こしを実施
- ・ 東京都は、区市町村の取組を支援するとともに、広域的なマッチングを促進するため、都内全域の様々な社会参加活動の情報を一元的に集約したオンラインプラットフォームを構築
- ・ なお、具体的な活動への参加希望があるシニア・プレシニアについては、活動別に設置された既存の窓口やwebサイトの活用を想定している。例えば、週4～5日で就労を行いたい方は、ハローワーク、東京しごとセンター、シルバー人材センター、アクティブシニア就業センター等、多様な既存の取組が活用できる。



幅広い社会参加活動を対象とする意義

- 年齢が若く、健康度が高いシニア・プレシニアは就労を希望するケースが多く、活動範囲も広い傾向にある一方、生活機能が低下していくと、ボランティア、趣味活動にシームレスに移行していき、活動も地域内で完結する傾向となる。また、初めは趣味活動や友人との交流を行い、ボランティア等のより役割を求められる活動に移行する場合もある。
- これらの事情を踏まえると、活動の種類を問わず東京都のシニア・プレシニア向け活動情報を一元化することや、区域外の活動もプラットフォーム事業の対象とする広域的取組が必要であると考えられる。

プレシニア、シニアの生活機能（=健康度）による分布と社会参加活動の枠組み



(出所) 東京都健康長寿医療センター 藤原 佳典 地域高齢者における社会的フレイルの概念と特徴～社会的側面から見たフレイル～を基に日本総研作成

区市町村における相談支援、社会活動案件の掘り起こしについて（現状の考察）

- 既存事例等を踏まえると、区市町村における社会参加の総合的な相談窓口の設置や社会参加活動案件の掘り起こしは、高齢者の社会参加に一定の効果があると考えられる。
- 社会参加の総合的な相談窓口は、漠然とした社会参加の希望を持つシニア・プレシニア向けの窓口であり、区市町村に1施設の形態だけでなく、各圏域の地域包括支援センターや社会福祉協議会の窓口が連携しながら、生活支援体制整備事業と一体的に実施する等、多様な形態が想定される。
- 一方で、「コーディネーターの人数に限りがあり、一度に大人数のマッチングは難しい」「1つの区市町村内で紹介できる活動には限度がある」といった課題があると考えられる。

	利点	課題
社会参加の総合的な相談窓口の設置	<ul style="list-style-type: none"> • 高齢者の「何らかの形で社会参加したい」という漠然とした希望を、具体的な活動につなげることができる。 • 高齢者の要望や置かれた状況を踏まえたマッチングが可能となることで、高齢者、団体双方にとってミスマッチが減少する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 面接が複数回に及ぶことも多く、1件当たりのマッチングに労力がかかることから、マッチング可能な件数は限られる。 • 高齢者のニーズを踏まえつつ、地域の多様な社会参加活動について理解しているコーディネーターを育成するのに手間がかかる。
社会参加活動案件の掘り起こし	<ul style="list-style-type: none"> • 地域の民間事業者や住民の多様な活動を把握することで、社会参加意欲のある高齢者に紹介できる案件を増やすことができる。 • 地域で活動している団体においては、人手不足で困っている団体もあり、自治体が接点を持ち人材を紹介できることは、団体側にとってもメリットがある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 区市町村で紹介しているのは、原則当該区市町村内に拠点を置く、あるいは活動をしている団体に限られるため、高齢者の多様な活動ニーズに応えきれないわけではない。 • 関係機関と連携しているものの、地域で活動する団体すべてを自治体側から探索し把握することは難しい。

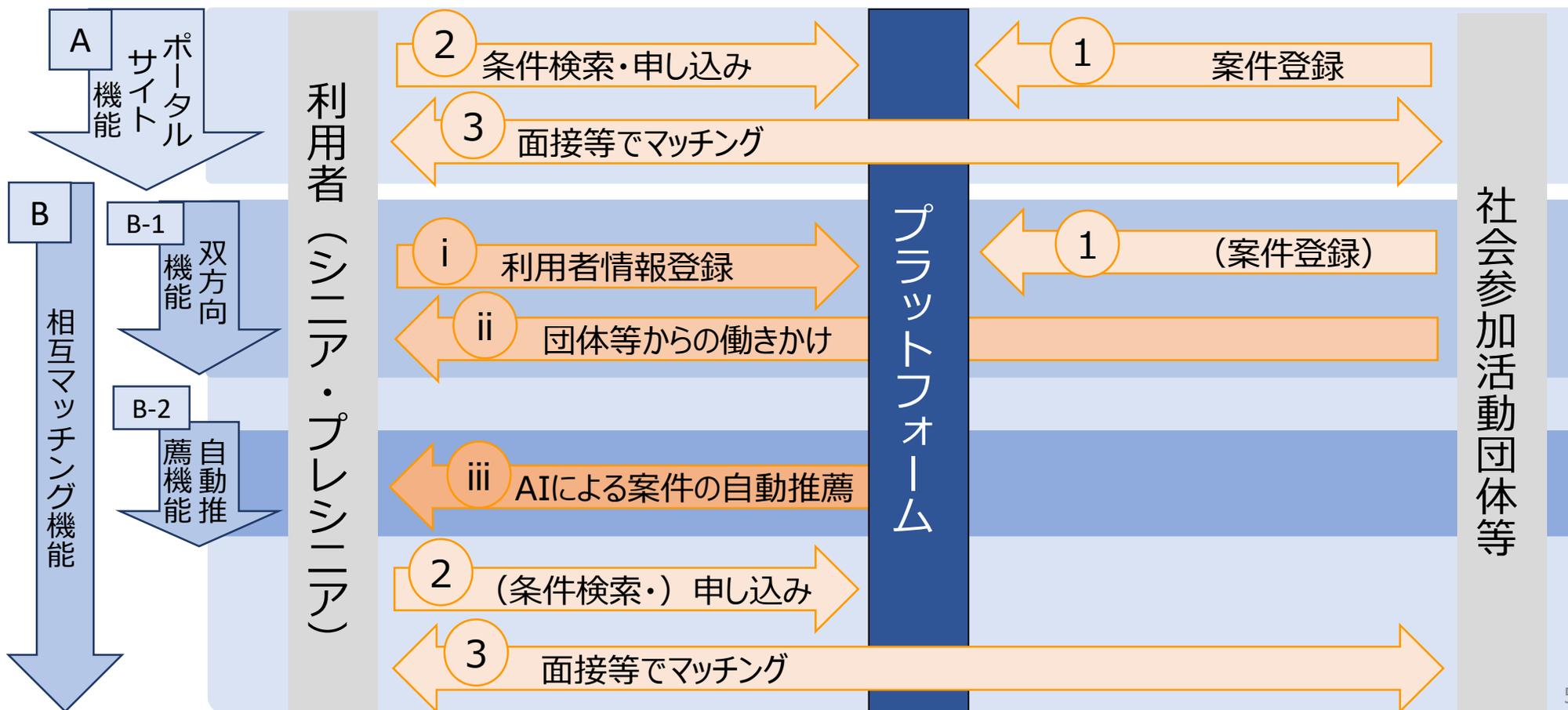
区市町村における相談支援、社会活動案件の掘り起こしについて（今後の対応の方向性）

- 社会参加の総合的な相談窓口や社会参加案件の掘り起こしは、いずれも重要な意義を持つが、希望を持つ全ての高齢者が自身の意向に沿った社会参加をするためには、より多くの高齢者に対し、より多様な活動を提示することが必要となる。
- こうした望ましい社会参加の形を実現するために、オンライン上のプラットフォームの構築について検討するとともに、コーディネーターの確保・育成の支援を行っていく。

現状		更なる社会参加促進に向けた方向性
社会参加の総合的な相談窓口の設置	<ul style="list-style-type: none"> • 高齢者の漠然とした希望を具体的な活動につなげることができる。 • 高齢者の要望と社会参加活動のミスマッチをへらすことができる。 • 一方で、コーディネーターのリソースには限りがあるので、マッチング可能な件数も限定される。 • コーディネーターの育成に時間と費用を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「就労」「ボランティア」といった活動種類ごとに独立した窓口ではなく、高齢者が「何か社会参加したい」と思った時に立ち寄れる 社会参加の総合的な相談窓口の意義は大きい。 ● 一方で、区市町村アンケートで8割程度の自治体が必要な支援と回答した コーディネーターの確保・育成の支援について、都が取り組んでいくことは不可欠である。 ● また、対面での面談と併用、あるいはそれ単独でも利用可能な オンライン上のプラットフォームがあると、より多くの高齢者に社会参加を促すことが可能になるのではないか。
社会参加活動案件の掘り起こし	<ul style="list-style-type: none"> • 高齢者に紹介できる案件を増やすことができる。 • 団体側にとっては、自治体が接点を持ち、人材を紹介してもらえるメリットがある。 • 一方で、全ての社会参加活動を自治体側から探索し把握するためには、時間と費用を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者の希望に応じた社会参加活動を紹介するために、地域の社会参加活動案件の掘り起こしは重要な意味を持つ。 ● 近隣の市区町村に通うことが可能な高齢者も少なくないと想定されることから、広域での情報提供は重要である。 ● また、自治体側から探索し、全ての地域活動を把握することは困難であり、地域の活動団体側で登録可能なプラットフォームがあることが望ましい。

プラットフォームの機能（概要）

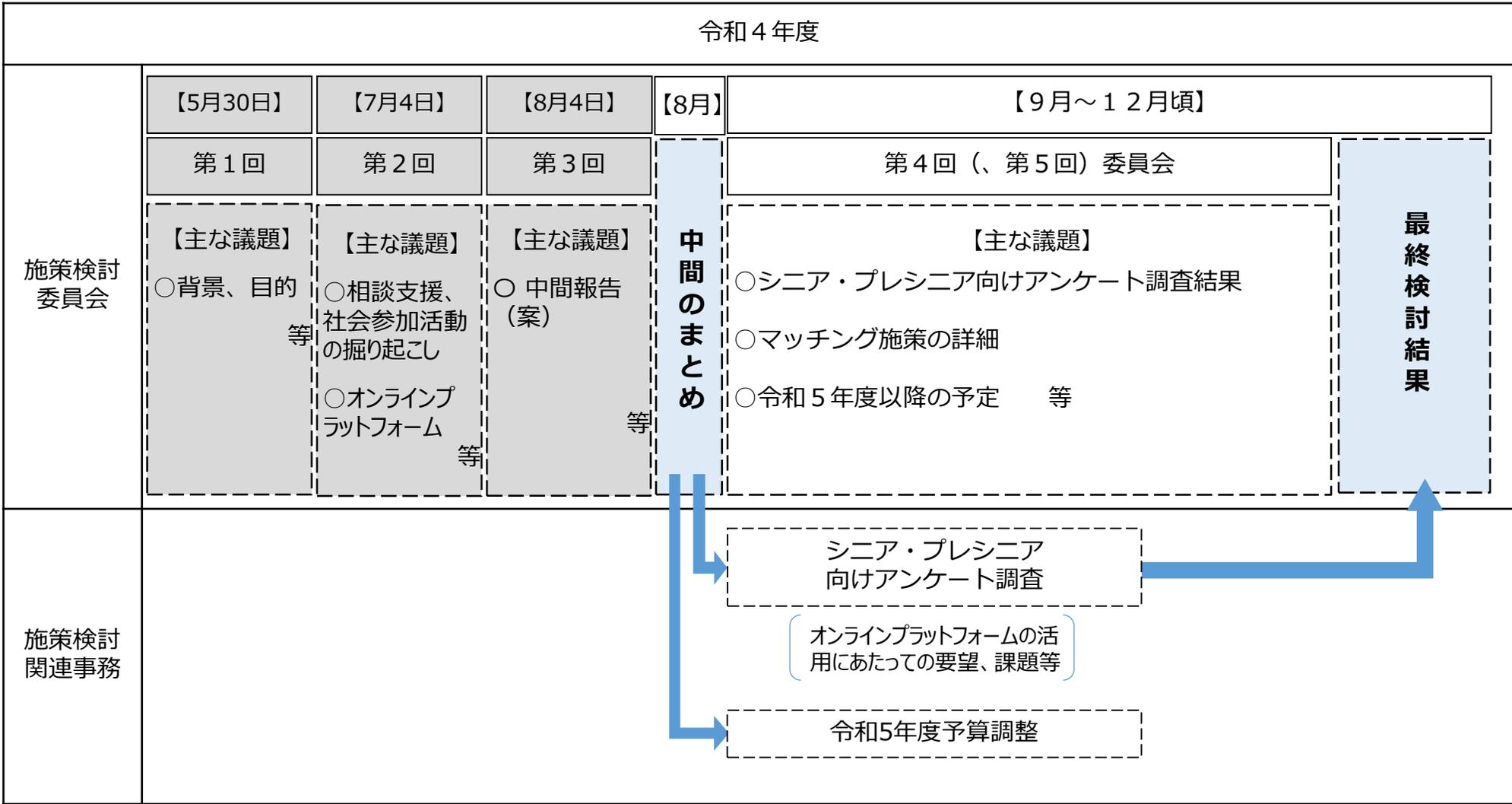
- プラットフォームの機能は（A）ポータルサイト機能、（B）相互マッチング機能に分類される。
さらに、相互マッチング機能は、（B）-1.利用者情報登録を行うことによって団体等からの働きかけを可能とする双方向機能と（B）-2.AIによる案件の自動推薦機能に分類される。
- 来年度はポータルサイト機能を有するプラットフォームを構築し、その後、活動の登録状況やシニア・プレシニアの利用状況等を踏まえてwebサイトに相互マッチング機能の追加を検討
- また、社会参加活動の情報を安定的に確保するため、既存サイトの情報の自動転送等による連携を検討



6. 今後の取組方針

今後のスケジュール

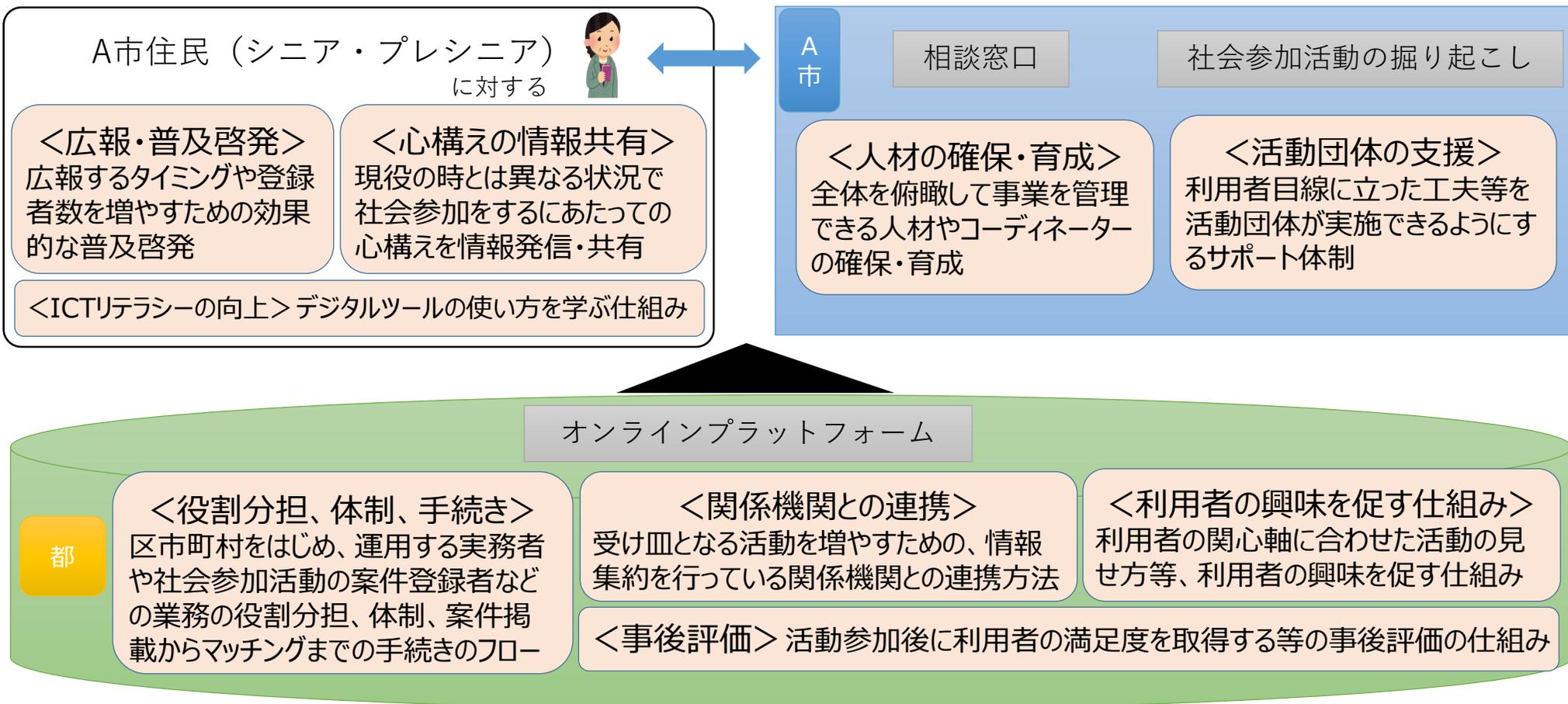
- 今後は、シニア・プレシニア向けアンケート調査結果等を踏まえて第4回（、第5回）委員会において施策の詳細等を討議し、年内に最終検討結果を公表する。



今後検討が必要な事項

- 第3回までの委員会での指摘事項をふまえて、今後以下のような点についての詳細検討をした上で、オンラインプラットフォームを活用したマッチング事業を具体化し、令和5年度以降のスケジュールを作成する。
- また、今後実施するシニア・プレシニア向けアンケート調査により、利用者のニーズや意向を詳細に把握する。

委員会での主な指摘事項



※複数の区分にまたがる事項については、最も関係の深い区分に記載